

五條橋



門前に池あり皎月池といひ中央に架する眼鏡橋を圓
 通橋といふ池には蓮あり花候には紅白妍を争ひて艶
 麗なり都人曉を侵して來り賞するもの多し又境内櫻
 楓に富み春秋共に遊興の客絶えぬ

鳥邊山の西大谷 古來より諸宗の埋葬地にして數千の墳
 墓累々たり其名世に高し當山要法寺には後京極長經
 墓あり又宇半の谷とて惡七兵衛景清を籠め置きたり
 といへる所あり(末の露本のしづくも鳥邊山おくれ
 ささだつ烟なりけり(家)

五條坂 清水邊より此邊の坂路を總じて五條坂と稱す

五條橋



○鳥邊山 ○五條

百二

門前に池あり皎月池といひ中央に架する眼鏡橋を圓
通橋といふ池には蓮あり花候には紅白妍を争ひて艶
麗なり都人曉を侵して來り賞するもの多し又境内櫻
楓に富み春秋共に遊興の客絶えき

鳥邊山西大谷 古來より諸宗の埋葬地にして數千の墳
墓累々たり其名世に高し當山要法寺には後京極長經
墓あり又宇半の谷とて惡七兵衛景清を籠め置きたり
といへる所あり(末の露本のしづくも鳥邊山かくれ
ささだつ烟なりけり家)
五條坂 清水邊より此邊の坂路を總じて五條坂と稱す

れども現今は重に西大谷より五條に接する坂をいへ

り

清水焼陶器 粟田焼は寛永の初年尾州瀬戸より來りて
其業を弘めたりしが清水焼は御菩提焼の流にして陶
器の名工北村仁清氏より起れりといふ其後高橋道八
尾形周平等の名手輩出し染附金蘭手青磁の類唐の南
蠻焼の古製にも劣らざるものを作り出し次で六兵衛
龜亭與三兵衛藏六清風乾亭等の聲益新奇を出し遂に
現今の如く聲價を得るに至れりといふ
若宮八幡宮に在り 五條坂 むかし後冷泉天皇の敕願により源

○清水焼陶器 ○若宮八幡宮

頼義の勸請なりしが現今の社殿は承應三年後水尾天皇の敕命によりて御造營ありしものといふ

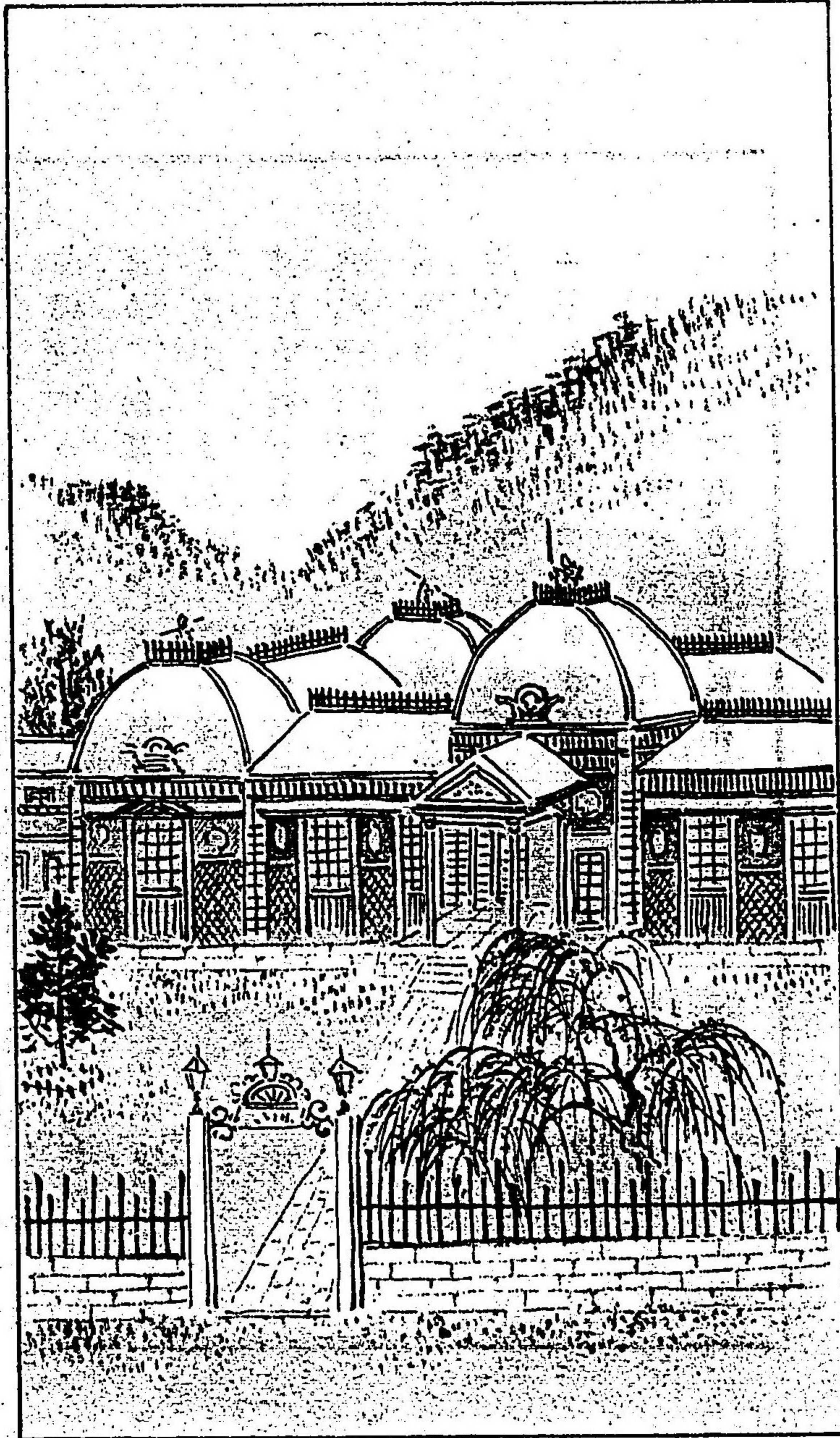
小松谷正林寺西大谷の東南 淨土宗にて惠空上人の開基なり此地舊と月輪兼實卿の第宅にして世に兼實卿を小松殿と稱せしもこれより起れり又小松内大臣重盛卿の山莊も此寺の西方民家の北に在りしより今も此邊を小松谷と稱す

大佛殿正面通東 方廣寺と號す豐太閤の建立にして堂宇壯大なりしが慶長七年火災に罹りて焼亡し同十五年秀頼これを再建せしも寛政十一年再び雷火の爲に

焼失せり現今は只大佛の半像ありて舊時の形を遺存するのみ鐘樓に大鐘あり高さ一丈四尺厚さ九寸慶長十九年秀頼の鑄造なり境内には胡枝花數叢あり中秋開花の頃には都下の遊人瓢酒を携へ來り賞するもの多し大佛の南に豐國神社あり

豐國神社上 方廣寺境内にあり豐太閤の靈を祀る明治十年別格官幣社に列せらる慶長年間には壯大なる殿舎ありしが徳川氏之を破壊せり現今の殿社は明治維新後更に建營せしものなり此邊の後の山を阿彌陀峯といひ豐太閤の廟あり

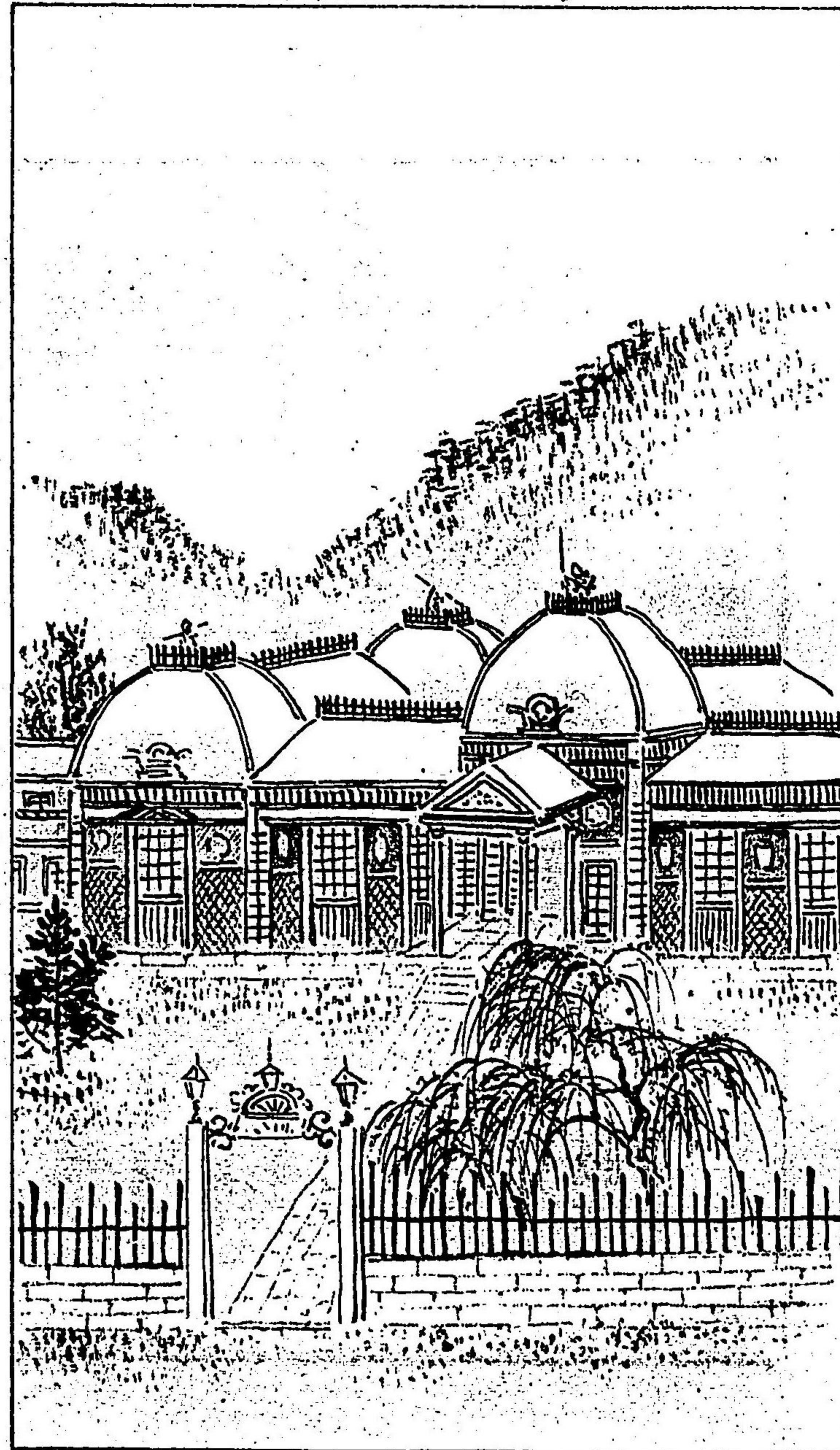
博 物 館



○耳塚 豊國神社 ○妙法院 ○智積院 百六

耳塚 豊國神社の 豊太閤朝鮮を征せしとき敵の首を獲
 ること幾萬級といふをしらせ悉く其首を携へ還ること
 と能はせ依て之を刎り或は刎りて日本に送れり此塚
 は即ち其耳鼻を埋葬せし所なり
 妙法院 馬町の南側 延暦寺惠亮僧正の開基にして代々
 法親王の住せられし寺院なり舊と祇園の南に在りて
 小坂殿又綾小路宮など稱せしが豊國社創建の時此地
 に移せしといふ當寺には什寶多し
 智積院 豊國神社の東阿彌 豊太閤其子乘君の早世を哀
 み爲に祥雲院を此地に建立して菩提寺となせしが徳

博 物 館



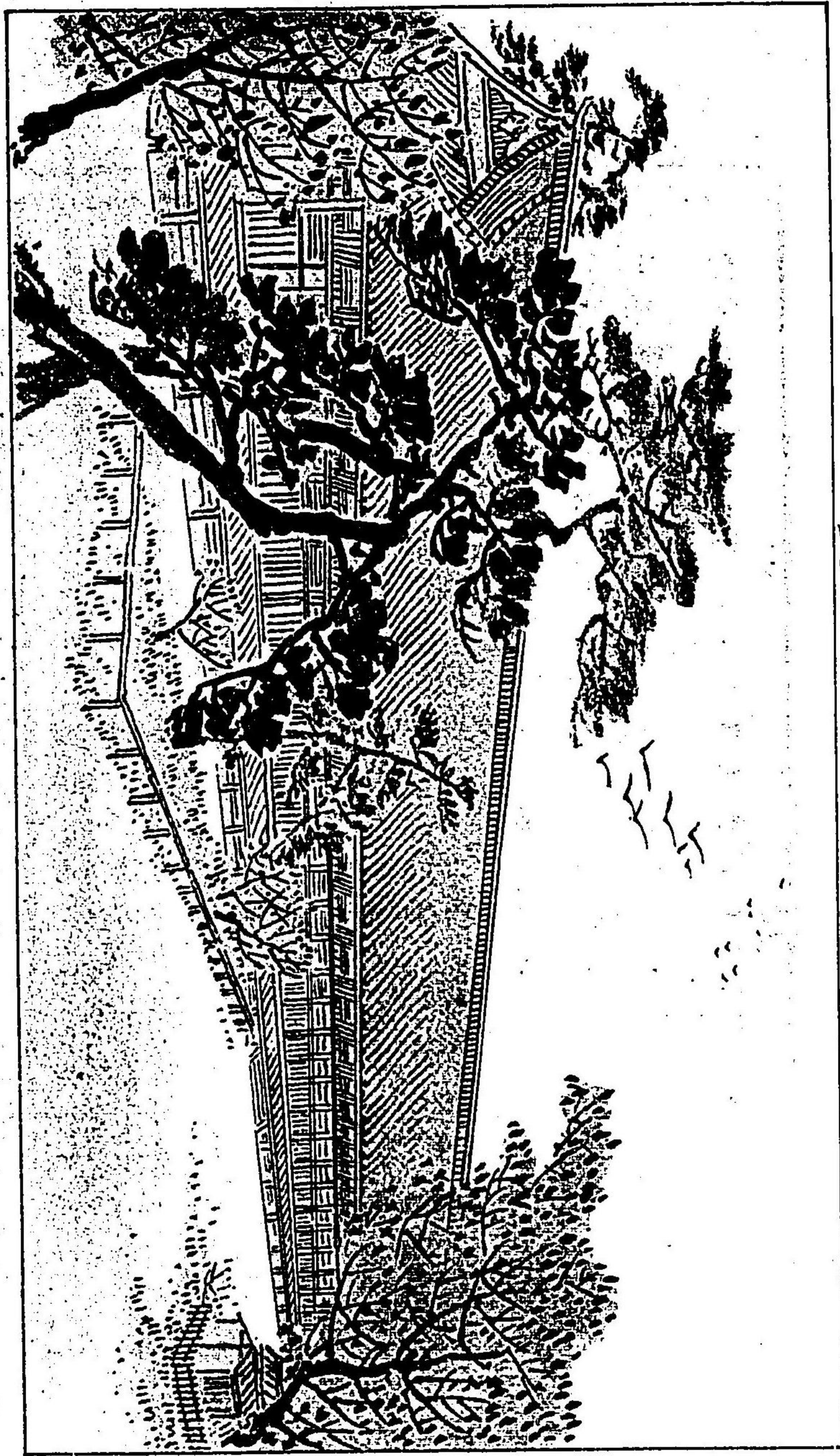
○耳塚 ○妙法院 ○智積院 百六

耳塚みみづか前まへに國くに神かみ社やしろの 豐ほう太たい閣かく朝あさ鮮せんを征せいせしとき敵てきの首くびを獲とらること幾いく萬まん級きゅうといふをしらむ悉ことごとく其その首くびを携たづなへ還かへると能あたはむ依よて之をを取とり或あるは刺さりて日本にほんに送おくれり此こゝ塚づかは即すなはち其その耳みみ鼻はなを埋まい葬さうせし所ところなり

妙めう法ほう院いん馬ば方ほう成じやう寺じの東ひがし 延えん曆りやく寺じ惠ゑ亮りやう僧そう正じやうの開ひら基きにして代たひ々々法ほう親しん王わうの住すませられし寺じ院いんなり舊ふると祇ぎ園えんの南みなみに在ありて小こ坂さか殿どの又また綾あや小路こうじ宮みやなど稱しょうせしが豐ほう國こく社しゃ創そう建けんの時とき此地こゝに移うつせしといふ當あたり寺じには什じふ寶ぼう多たし

智ち積じく院いん豐ほう國こく神かみ社やしろの東ひがし阿あ彌や 豐ほう太たい閣かく其その子こ乘ま君きみの早はや世せいを哀あはみ爲なに祥しやう雲うん院いんを此こゝ地ちに建た立たして昔むかし提だい寺じとなせしが徳とく

川氏に至り眞言宗新義派の門徒等曾て豊公の爲に滅
されたる紀州根來寺の廢絶したるを歎き屢これを愁
訴しければ徳川氏即ち祥雲院の建物を賜ひ根來寺智
積院と稱し眞言宗新義派の總本山となさしめしとい
ふ本尊は不動明王にして興教大師の作なり
帝國博物館前在り 明治廿五年六月より起工せり
來る明治廿八年十月には全部落成すべしといふ土地
高燥にして域内一萬餘坪あり表門は半月形にして花
岡石の柱鐵製の門扉を設く門と玄關との中央に池あり
池畔花卉樹木を植ゑたり玄關正面の上には帝國博



○新日吉神社

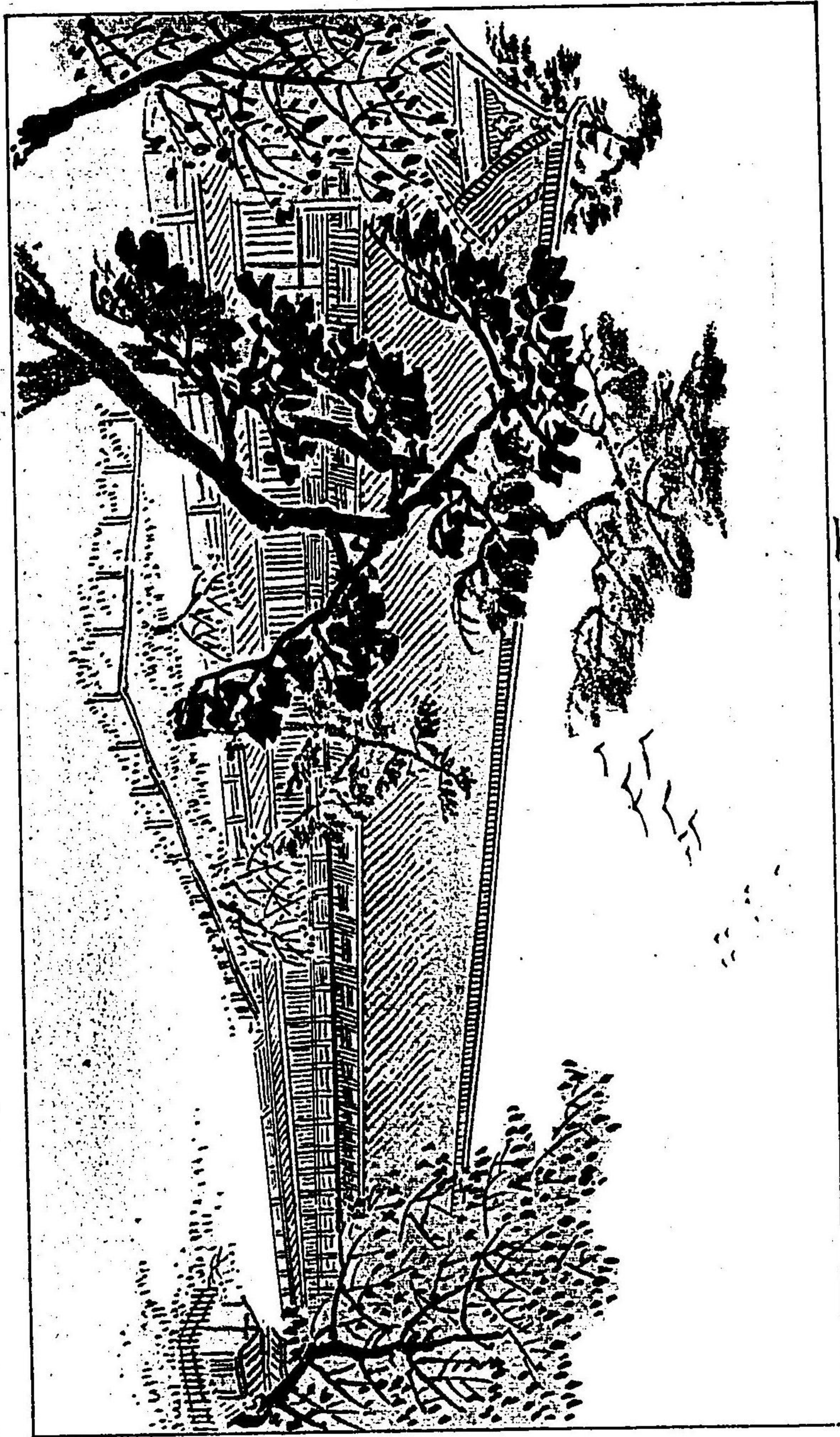
物館の額を掲げ其上には毘首羯摩の兩像を彫刻せり
 石段あり左右に大なる花岡一枚石を敷列ね左には普
 賢菩薩獅子乗の銅像右には文殊菩薩象乗の銅像を据
 ゑたり館内は分ちて彫刻室繪畫室古器物室等數十室
 とす又中庭あり屋上には數十の避雷柱を設け床下高
 くして床と柱石との間には石盤を敷ける等裝飾の優
 なる構造の雅なる實に輪奐の美を盡せるものといふ
 べし

新日吉神社南にあり
 配祀せり後白河法皇の御勸請にて近江日吉の神を移

物館の額を掲げ其上には毘首羯摩の兩像を彫刻せり
 石段あり左右に大なる花岡一枚石を敷列ね左には普
 賢菩薩獅子乗の銅像右には文殊菩薩象乗の銅像を据
 ゑたり館内は分ちて彫刻室繪畫室古器物室等數十室
 とす又中庭あり屋上には數十の避雷柱を設け床下高
 くして床と柱石との間には石盤を敷ける等裝飾の優
 なる構造の雅なる實に輪奐の美を盡せるものといふ
 べし

新日吉神社南にあり
 配祀せり後白河法皇の御勸請にて近江日吉の神を移

圖 三十三



し祭る因て新日吉といふ應仁の兵亂に大半破壊せしが妙法院堯然法親王これを再建せりといふ祭禮は毎年五月十四日なり

三十三間堂南にあり天台宗にして蓮華王院と號す長承元年後鳥羽天皇此地に三十三間堂を建立せられこれを得長壽院と稱し一千一軀の觀音像を安置し給へり其後長寛元年後白河天皇又三十三間の堂を建立せられ一千一軀の觀音像を安置し蓮花王院と號し給ひしが寶治二年に及び兩寺ともに火災に罹れり後醍醐山天皇文永三年に御再建二寺を合せて一寺とし獨り

蓮華王院の名を存せり堂の長さ六十六間二間毎に柱あり故に三十三間堂と稱す本尊は千手觀音坐像にして長さ八尺康慶の作なりといふ又千軀の千手觀音像は堂内左右に安置し長さ各五尺にして運慶・湛慶及び其他の作本尊を併せて一千一軀あり此堂の後に於て射術を試みる事ありこれを矢數といふひかし星野勘左衛門和佐大八郎等八千箭を通せし故事あり今尙射術を茲に試みるものあり又堂前に燕子花あり初夏の眺望甚美なり

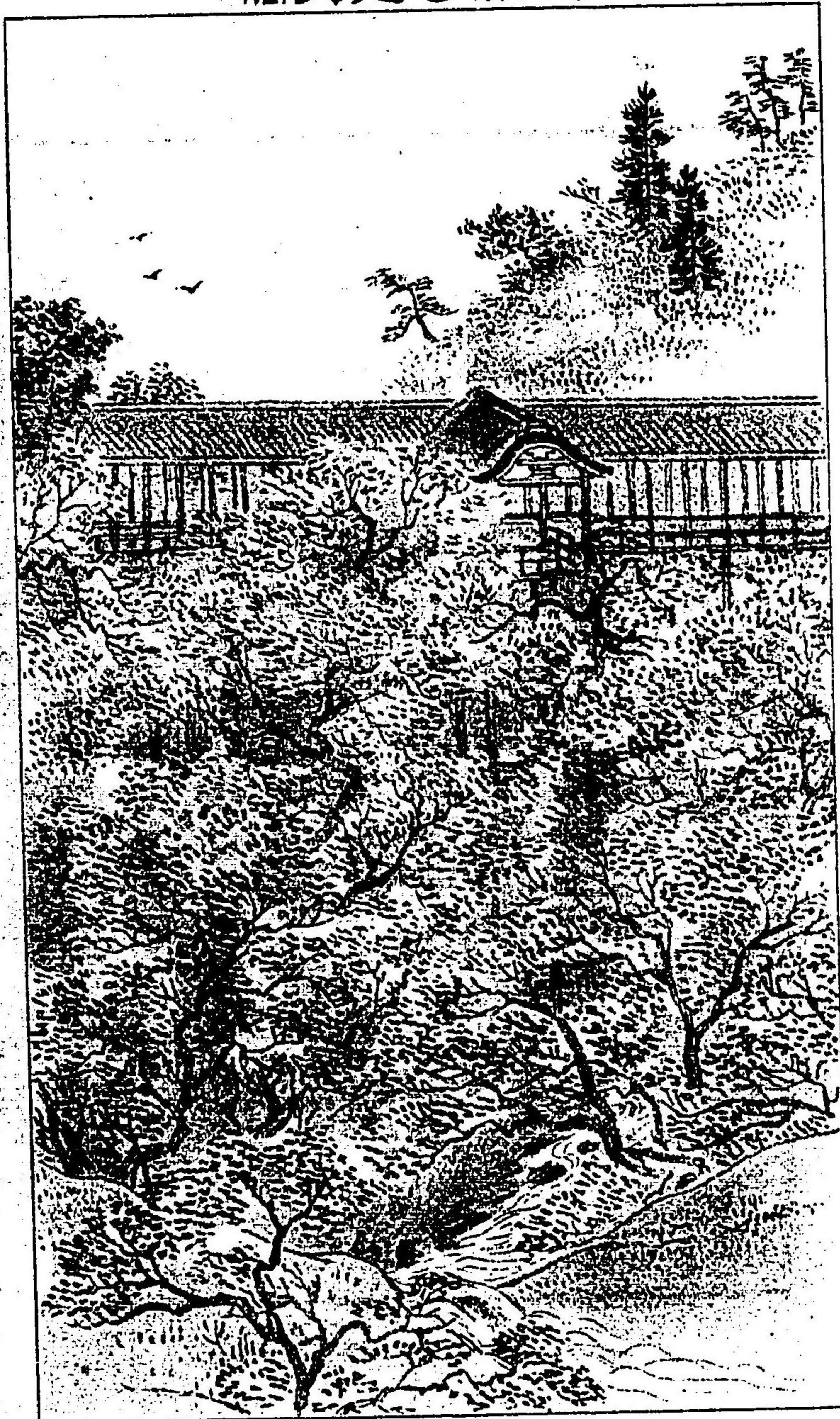
新熊野神社 今熊野町にあり 祭神は伊弉册命にて後白

河天皇の創立なり當初は宮殿廻廊巍然たる建物ありしが應仁の兵火に罹り衰頽に及べり今の殿社は勝仙院僧正の再建なりといふ

劍神社 東南にあり 伊弉那伊弉美命を祭る今の殿舎は明治以後信徒の建立にして祭日は四月七日なり此邊杜鵑の名所にして新緑の候には文人墨客其初聲を賞せんとて來るものあり

泉涌寺 橋の東にあり 初め弘法大師の開基にて眞言宗なりしが齊衡三年左大臣緒嗣公これを再建し天台宗となれり其後又俊苜法師これを中興してより天台眞

東福寺通天橋



言禪律の四宗を兼修す麓に清泉涌出するを以て泉涌
 寺と稱す當寺は四條天皇以後歷朝の御廟所にて後山
 には先帝孝明天皇の陵あり頗る壯麗なり又當寺の佛
 牙の舍利は其名世に高し二重の金塔に藏め佛殿の後
 なる舍利殿に安置せり境内の風景頗る幽靜にして老
 松古杉翠を疊み殿宇樓閣其間に掩映せり
 新熊野觀音寺泉涌寺の北、本尊十一面觀音は弘法大師
 の作にて當寺は西國順禮札所の靈場なり此邊はむか
 し山本左大臣緒嗣公山莊の地なりしといふ
 瀧尾神社の南見街道一りの番 村社にして大國主神を祭れ

東福寺通天橋



○新熊野観音寺 ○瀧尾神社

百十二

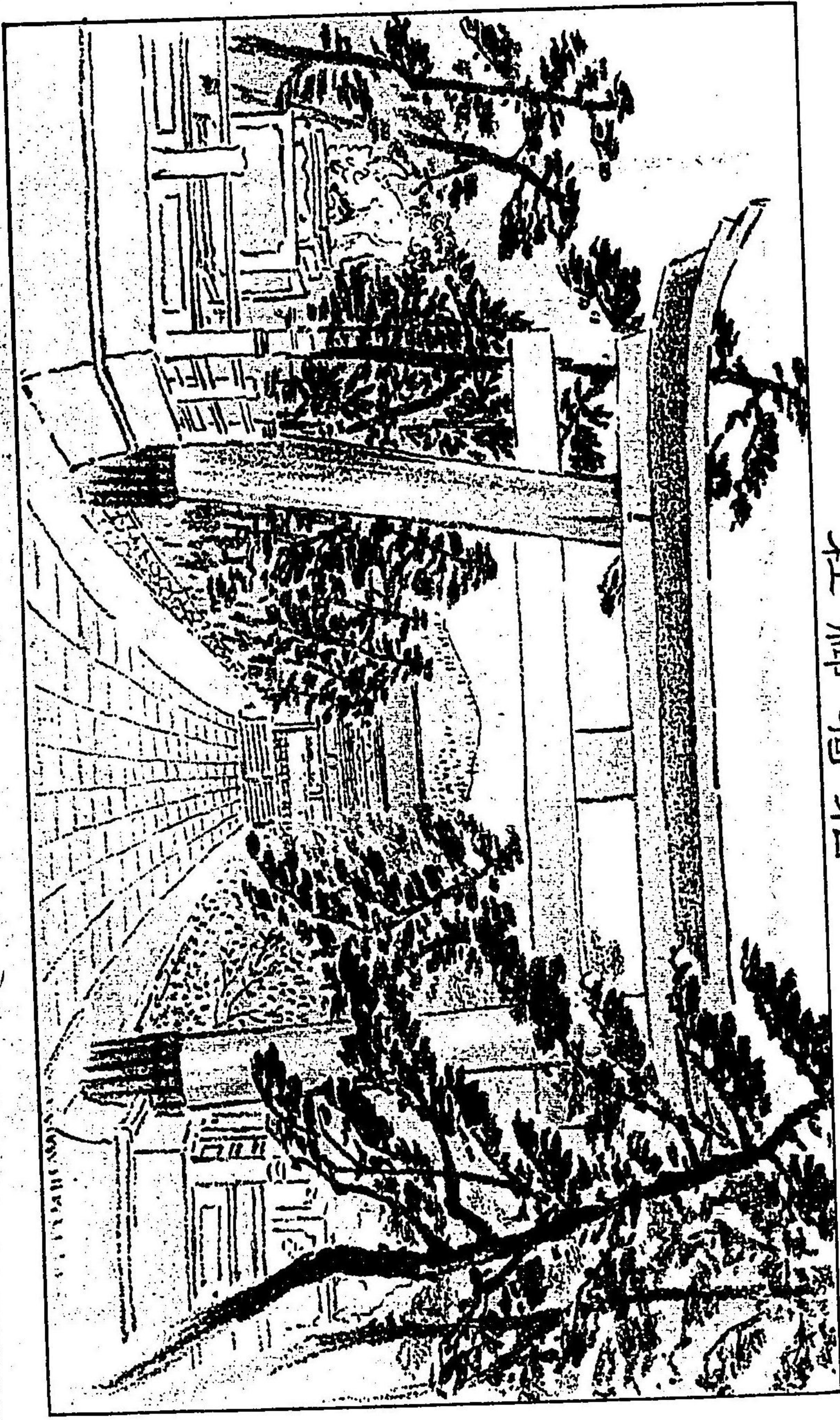
言禪律の四宗を兼修す麓に清泉涌出するを以て泉涌寺と稱す當寺は四條天皇以後歴朝の御廟所にて後山には先帝孝明天皇の陵あり頗る壯麗なり又當寺の佛牙の舍利は其名世に高し二重の金塔に藏め佛殿の後なる舍利殿に安置せり境内の風景頗る幽靜にして老松古杉翠を疊み殿宇樓閣其間に掩映せり

新熊野観音寺山腹にあり本尊十一面観音は弘法大師の作にて當寺は西國順禮札所の靈場なり此邊はむかし山本左大臣緒嗣公山莊の地なりしといふ

瀧尾神社の伏見街道一の橋 村社にして大國主神を祭れ

り今の社は天保年間梶井宮應胤法親王の建立なり祭
日六月十二日

東福寺橋の見街道二の 禪宗臨濟派五山の一にて聖一國
師の開基なり又五山の其一なる萬壽寺は東福寺の北
にあれども此寺現今荒廢せり東福寺の本堂も前年火
災に罹り烏有となり未だ再建成らむ境内廣潤にして
山に據り溪に跨り幽邃いふべからむ有名なる通入橋
あり溪上に架せり四邊皆楓樹にして霜葉の候橋上よ
り溪間を瞰れば兩畔の秋錦濯ふが如く溪流を映照し
滿溪燦爛たり通天橋の東北山上に傳衣閣あり橋より



稲荷神社

○稲荷神社

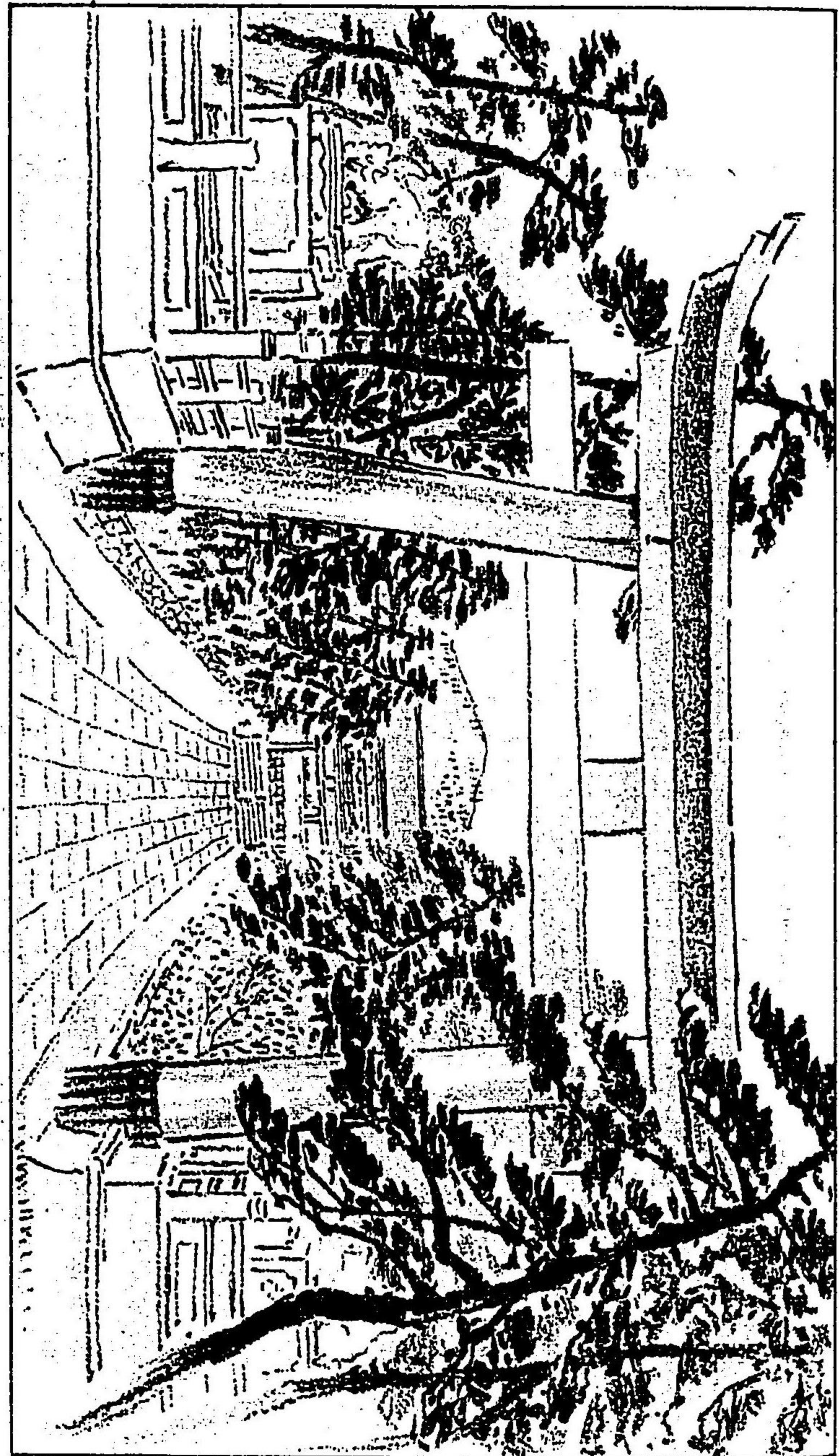
廻廊を以て通せり其間は窈窕たる磴道にして左右苔滑に樹幽なるさま得もいはれ當寺にも什寶多く其中尤も世に名あるは兆殿司の畫ける涅槃像と五百羅漢の像にして涅槃像は毎年三月十五日これを佛殿に掛けて參詣人に縦覽せしむ

稲荷神社東福寺より十餘町深草村にあり官幣大社にして祭神は倉稻魂神素戔鳴尊大市比賣神大己貴尊外四大神なり和銅四年二月午日倉稻魂神始て本社の後山なる三峯に垂跡し給ふ延喜八年藤原時平社殿を修造し其後永享十年三峯より此所に遷座せりといふ殿舎樓門費を並べ

廻廊を以て通せり其間は窈窕たる磴道にして左右苔
 滑に樹幽なるさま得もいはれき當寺にも什寶多く其
 中尤も世に名ゐるは兆殿司の畫ける涅槃像と五百羅
 漢の像にして涅槃像は毎年三月十五日これを併殿に
 掛けて參詣人に縦覽せしむ

稻荷神社 東福寺より十餘 官幣大社にして祭神は倉稻
 魂神素盞鳴尊大市比賣神大己貴尊外四大神なり和銅
 四年二月午日倉稻魂神始て本社の後山なる三峯に垂
 跡し給ふ延喜八年藤原時平社殿を修造し其後永亨十
 年三峯より此所に遷座せりといふ殿舎樓門甍を並べ

社 稻 荷 稻 荷



朱欄丹楹頰る壯麗を盡せり諸國より參詣の客常に絶
 えを殊に毎年二月初午の日には群集雜選を極む
 稻荷祭は毎年五月七日にこれを行ふ神輿五基伏見街
 道を北に過ぎ七條橋を渡り九條村御旅所に神幸あり
 儀式嚴肅にして行裝甚だ華美なり
 深草里深草村 歌に詠むる深草里は北は稻荷神社より
 南は墨染に至り東は大龜谷より西は竹田に至るの間
 をいふ此邊古寺舊跡多し今其尤なるものを左に概記
 す此邊むかしより鶉の名所にて其聲他境に勝れりと
 いふ又深草には瓦焼を業とするもの多し名産には深

草園扇等あり(夕ざれば野邊の秋風身にしみて鶉な
くなり深草の里)

●石峯寺 深草村にあり黄檗宗にして千月和尚の開
基なり山上に若冲の下畫なる五百羅漢の石像あり●
寶塔寺 石峯寺の南にあり法華宗にして日像上人の
開基なり日蓮日朗の遺骨を收めし石塔婆あり又後方
の山に七面社及び七面の瀧あり●瑞光寺 寶塔寺の
南にあり元政上人の開基なり●法華堂 後深草天皇
外數帝の御骨を收めし所なり●嘉祥寺 空心上人の
中興せし寺にて本尊は聖天尊を安置す近傍に仁明天

皇の御陵あり

●深草村より大龜谷を過ぎ東に行けば醍醐山科に至
るべし

鞠修寺 山科村字

眞言宗にして大寺なり醍醐天皇の

母后胤子の本願により延喜四年創建せし所にて開基

は範俊僧正なり本尊は千手觀音等身の像を安す

隨心院 野田村字小

眞言宗にして僧俊阿闍梨の開基な

り當寺に地藏あり小野小町の作にてひかし小野小町

の許に諸方より來れる艶書を集めこれを張貫に製し

たる像なりとぞ又隨心院の傍に小野の井ありひかし

小町の邸宅ありしといふ
 醍醐寺に醍醐村 深雪山と號す醍醐天皇の敕願により創
 建せし寺にて開祖は理源大師なり伽藍は山上と山下
 とに在り山上にあるを上醍醐とし山下にあるを下醍
 醐とす下醍醐には山門本堂五層塔開山堂等あり本堂
 には本尊藥師佛を安置す此堂は醍醐天皇の御遠忌の
 爲め豐太閤の建立せしものなりといふ開山堂は弘法
 大師及び理源大師の像を安置し五層塔は本堂の左に
 高く聳え説相曼荼羅を掲ぐ上醍醐は麓より三十餘町
 の坂路を登り山上にあり觀音堂五大堂如意輪堂祖師

堂藥師堂等の建物あり關伽井は觀音堂の下に在り
 かし理源大師始て此山上に登りしとき白髮の異人現
 はれ此水を指し醍醐の清泉なりと示せしものなりと
 いふ此邊山勢嶮峻として古杉老松道の左右を掩ひ山
 氣蔭鬱たり當寺には古什寶甚多し

三寶院上 舊と理源大師の住房にして眞言宗門跡なり
 當時は豐太閤花看の舊跡にて門扉に菊と桐とを刻せ
 り堂宇頗る壯麗にして林泉亦雅趣あり池畔に藤戸口
 あり豐太閤の寄送せしものなりといふ
 一言寺上 眞言宗にして醍醐寺に屬す本尊十一面觀音

は安阿彌の作なり當寺は信西入道の女阿波内侍の舊跡にして境内に内侍堂あり其像を安す

日野薬師野村にあり日法界寺といふ日野家宗の建立にして本尊薬師佛は金銅七寸の坐像なり婦女の乳汁に乏しき者は此薬師に祈禱を籠むれば靈驗ありといひ参詣人多し

日野村より東北七町許にて佛心寺の舊地茶園の中に平重衡の塚あり

藤森神社伊郡森居府社にして舍人親王早良親王伊豫親王を祀る光仁天皇天應元年蒙古の賊廣せし外國を

一に攻來る天皇早良親王を大將軍とし退治すべき宣旨を賜ふ親王本社に祈る神威著しく暴風大に起り賊船大に没し戦はせして亡ぶ今撰甲騎馬の祭式存するもこれによれりといふ又本社を弓兵政所といふも此義なり社内に旗塚蒙古塚方石等あり祭日は六月五日墨染寺北見町のひかし清和天皇御降誕の時寶祚を祈り大相國忠仁公の建立せし貞觀寺の舊地なりしが其後日秀上人これの中興し法華宗の寺院となる寺内墨染櫻の舊跡あり(深草の野邊の櫻し心あらばことしばかりは墨染にさけ半上雄野)

桃山いさみやま 藤森神社ふじもりの 豊太閤ほうたかの 伏見ふし見の 城しろを 築きずきたる 舊跡きゅうせきにして 山上さんじやうの 宇治見臺うぢみだいは 眺望佳絶てうぼうかぜつなり 宇治川うぢがはの 長流ちやうりゆう巨こほ 棕そうの 巨浸こしん 眼下がんかに 望み得のぞべく 壯快さうくわいいはん 方かたなし 又また 梅谷うめやといへる 所ところあり 満目梅花まんもくばいけならざるは なく 萬斛ばんこくの 清香せいかう人を 襲おそふ 觀梅くわんばいの 客筈きやくつゑを 曳ひき 瓢ひょうを 携たづへ 來きたり 賞しょうするもの 絶たえぬ

桓武天皇陵くわんむてんわうののみさき 桃山いさみやまに 宇三軒屋うさんげんやと 稱しょうし 人家じんか數軒かずげん並ならべる 所ところあり 此こゝより 西にし一町餘いちちゆうよの 所ところに あり 四周石壘ししゅうせきるいを 築きずきて 兆域てういき頗おほく 松樹しょうじゆ鬱うつたり 近年きんねん新あらたに 修繕しゆせんを 加くわへ 頗おほく 壯麗さうらいをつくせり

御香宮みかみやに 桃山いさみやまの 西にし 府社ふしやにして 神功皇后じんこうくわうごを 祭まつる 現今げんこんの 殿てん社は 慶長けいぢやう十年ねんじゆ徳川氏とくせんしの 建立けんりつなり むかし 清泉せいせん此地このちに 涌よみ出し 其水香そのみづかうし 故ゆゑに 名なとすといふ

伏見町ふし見まち 伊山いざん 山城やましろ第二だいにの名邑めいよくにして 京都きやうとの 南二里なんにりに 在あり 東ひがしは 桃山いさみやまに 據より 南みなみは 淀川よどがはに 臨のぞめり 東西とうせい十四五町しじゆごまち南みなみ北きた一里いちりに 亘わたり 戸數こすう四千三百よんせんさんひゃく人口じんこう一萬六千餘いちまんろくせんよあり 市街しがい繁盛はんせいにして 肆店してん櫛比しひし 萬般ばんぱんの 商賈しやうか備そなはざるは なし 郡ぐん役所やくしよ裁判所さいばんしよ郵便電信局ゆうびんでんしんきょく工兵屯營所くわうへいとんえいしよ警察署けいさつしよ銀行等ぎんこうとうあり 又また 淀川よどがは 濠船會社せうせんかいしやあり 又また 本年ねんねん新あらたに 電氣鐵道でんきてうだうを 布設ふせつし 交通頻繁かうつうひんぱん 運送うんそう至便しべんの 地ちとなる

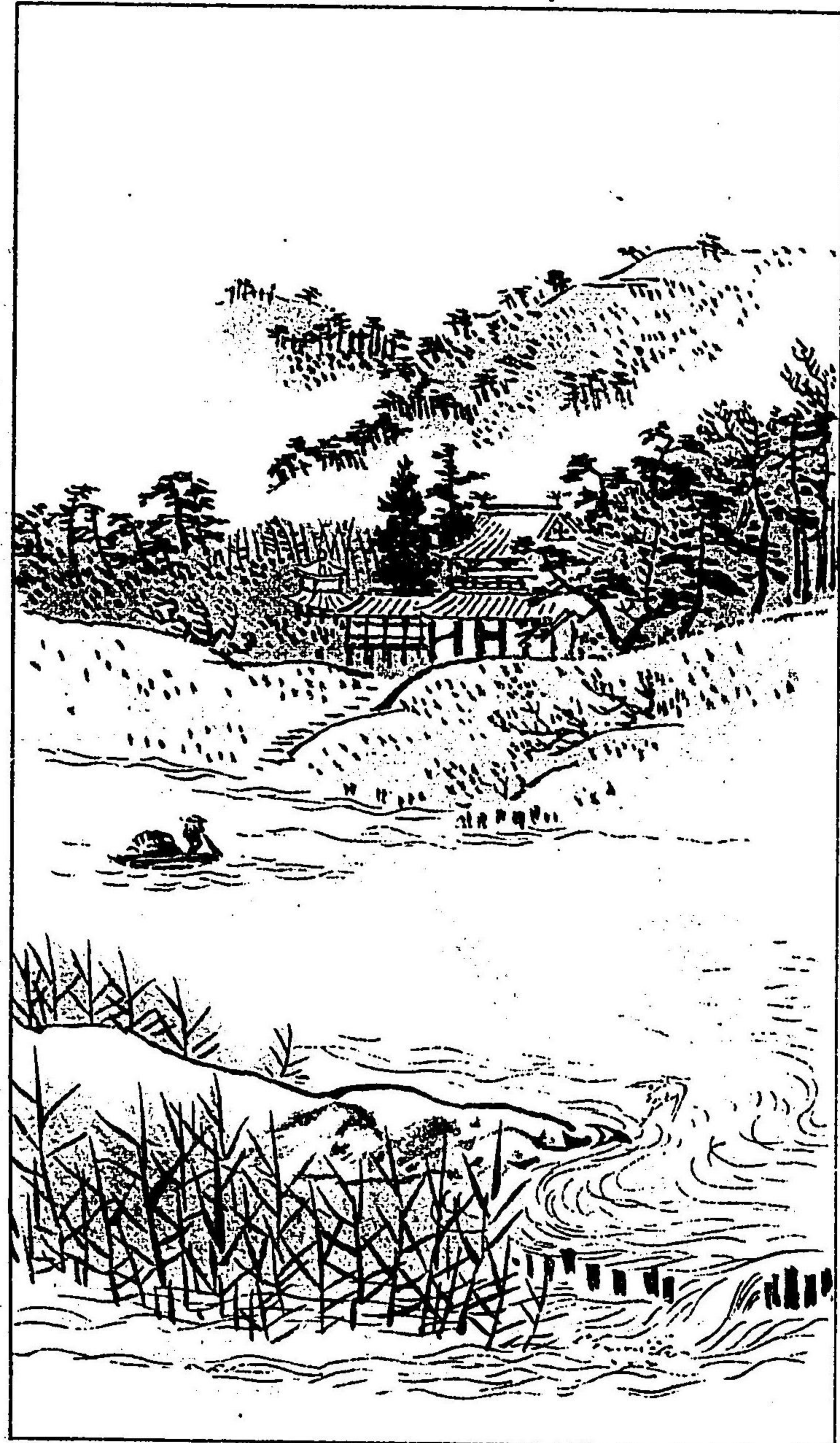
觀月橋 豐後橋とも稱す伏見町の東南隅に在りて宇治川に架す觀月の名所にして月夜橋上の眺望殊に佳絶なり橋北の東岸に指月の森あり三夜莊といへる西本願寺の別莊あり

●觀月橋を渡り右すれば巨椋湖に至り左すれば宇治に至る

巨椋湖 宇治川の水注て湖をなす周圍四里餘あり水面渺漠として水禽蘆間に遊泳す又蓮花多く夏曉舟を淡鶉の中に浮べ觀蓮の遊をなす最も妙なり湖の東に巨椋神社あり春日明神を祀る

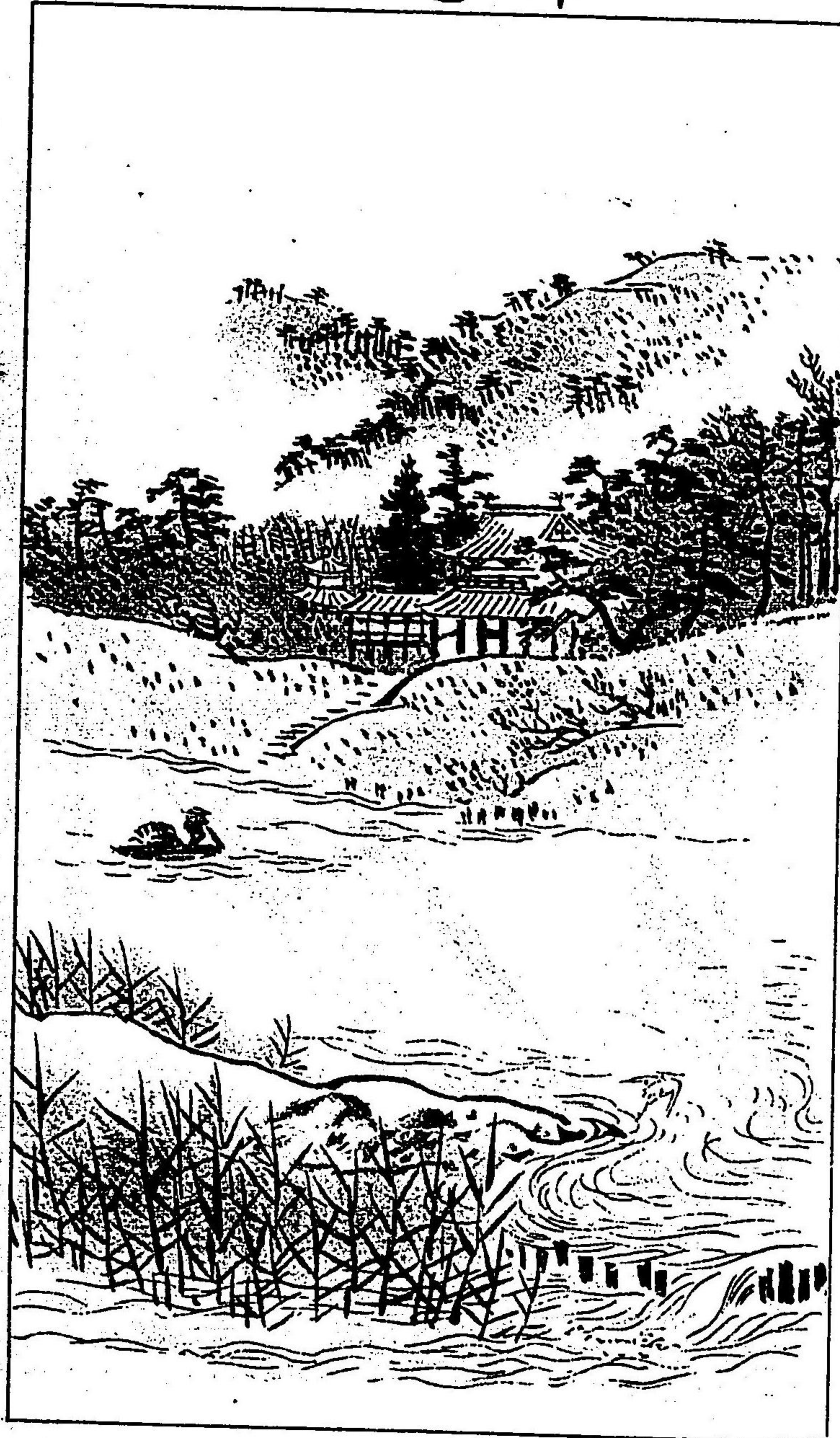
宇治 京都を距ること四里十一町戸數六百九十七人口三千四百餘あり前面は宇治川の清流に臨て朝日山の晴翠を挹み四時の風光佳ならざるなく殊に新緑の候螢火の節には來りて遊賞する最妙なり又此邊茶の名所にして摘芽の頃には園中に婦女歌を謠ひ茶を摘むさまなど一種の雅趣あり宇治川の兩岸に料理屋あり北にあるを萬屋といひ南にあるを菊屋といふ樓上の眺望佳絶なり又宇治川の沿岸を溯りて江州石山に往くの徑路あり此間兩岸の絶景實に名狀すべからむ就中鹿飛米漸などいへる所あり奇岩怪石谿澗として秀

院 等 平



づその奇峭快絶なる多く保津川に劣らぞ
 平等院ひらうどういん宇治橋の南 天台宗にして三井寺に属す當寺は
 其初河原左大臣の別業なりしが薨去の後陽成天皇行
 宮を此に築き宇治院と稱し給ひ宇多朱雀の兩帝亦こ
 れを離宮となし給ひしが長徳二年藤原道長請てこれ
 を山莊とし其子頼通の時これを寺院となし平等院と
 稱せり境内には有名なる鳳凰堂あり堂内安置する所
 の本尊は阿彌陀佛にして定朝の作なり鳳凰堂は本邦
 にて最有名なる古建築にして前年米國大博覽會に本
 堂の模形を出せしことあり又樓門の内に扇の芝あり

院 等 平



づその奇峭快絶なる多く保津川に劣らむ
 平等院二字治橋の南 天台宗にして三井寺に属す當寺は
 其初河原左大臣の別業なりしが薨去の後陽成天皇行
 宮を此に築き宇治院と稱し給ひ宇多朱雀の兩帝亦こ
 れを離宮となし給ひしが長徳二年藤原道長請てこれ
 を山莊とし其子頼通の時これを寺院となし平等院と
 稱せり境内には有名なる鳳凰堂あり堂内安置する所
 の本尊は阿彌陀佛にして定朝の作なり鳳凰堂は本邦
 にて最有名なる古建築にして前年米國大博覽會に本
 堂の模形を出せしことあり又樓門の内に扇の芝あり

源三位頼政自盡の故跡なり

宇治神社 田字治郷字山

離宮下社と稱し菟道稚郎子命を

祭れり

興聖寺 南にあり

禪宗曹洞派にて道元和尚の開基な

り本尊釋迦佛を安置す佛殿に掲ぐる興聖寶林禪寺の

額は青蓮院尊純親王の筆なり石門より中に入るの徑

を琴坂と云ひ左右に棟棠花あり境内頗る清幽なり後

方の山を朝日山といひ山上に小堂あり千手觀音の石

像を安す山氣秀靈にして眼下に宇治川の碧流を瞰る

風景頗る清奇なり ●宇治町より此邊に至る間朝日燒

○宇治神社 ○興聖寺

の陶器を鬻げる肆店あり

三室戸寺 莒道村の東、三 天台宗にして智證大師の開基
 なりしが其後荒廢し隆明和尚これを再興せり本尊八
 寸二分の觀音像は笠取山の麓なる岩淵の水底より出
 現したるものなりといふ本堂の西北に鎮守神あり其
 内に淨明法師を合せ祀れり淨明法師は三井寺の僧に
 して宇治橋合戦の時拔群の功を立てし人なり
 黄檗山萬福寺 五箇庄村 禪宗黃檗派の總本山にして隱
 元和尚の開基なり樓門に入れば山門天王殿大寶殿法
 堂等あり堂宇總て支那風にて聯額の文字は皆費隱隱

元木庵 即非等諸名僧の書にて他の寺院と全く趣を異
 にせり隱元和尚は原と明國福州の人にて林隆琦とい
 ふ承應三年始て本邦に渡來し萬治三年公命に依て此
 地を賜はり寛文三年に伽藍を創立せり當寺には什寶
 多く張璠圖の書に最名あるものなり又當寺に於て普
 茶料理とて支那風精進料理を出す事あり

西部

本能寺上京區寺町 法華宗にして永享五年日隆上人の開基なり初め妙顯寺の塔頭たりしが日齊上人法華宗に於て勝劣の一派を起せしより別れて一寺を立て其派の本山となれり當寺はその初め六角南油小路東にありたり天正十年織田信長明智光秀の爲に弑せられしは當寺の尙舊地にありしときにて現今の地に移りしは其後の事なり

妙満寺上京區南入町 當寺も法華宗にて永徳三年日什上人の開基なり寺内に紀州日高道成寺より移せし巨鐘

あり

草堂上京區寺町 行願寺と號し天台宗の寺院なり鎮西の僧行圓上人の開基にて本尊は十一面觀音の立像長さ八尺ありひかし行圓上人常に頤に寶冠を戴き身に革袋を着せしより世に草上人と稱し堂を草堂と稱したり又當寺は西國順禮十九番の札所なり

下御靈神社上京區南入町 草堂の北にあり府社なり貞觀五年始て祀るところにして早良親王伊豫親王藤原吉子文屋宮田麻呂橘逸勢藤原廣嗣吉備大臣火雷神の八靈を鎮座す八靈の中吉備大臣を除くの外は皆非命

冤罪にかゝり終をよくせざる人にて後世其亡靈を此に祭り其怨魂を慰せしものといふ

京都博覽會場上京區九本町 毎年四月一日より五十日間開會するを例とす本年は三月二十五日より百日間を期し時代品展覽會を開くその目的は延暦以後の名器寶什を蒐集陳列し第四回内國勸業博覽會に出品せる新製品と對照し古來工藝美術上の變遷消長を示し參考に供するにあり陳列區は七區にして延暦及び藤原時代唐宋元及び鎌倉時代足利及び豊臣時代徳川時代浮世繪明清明治大家の製作品に分てり物品の種目

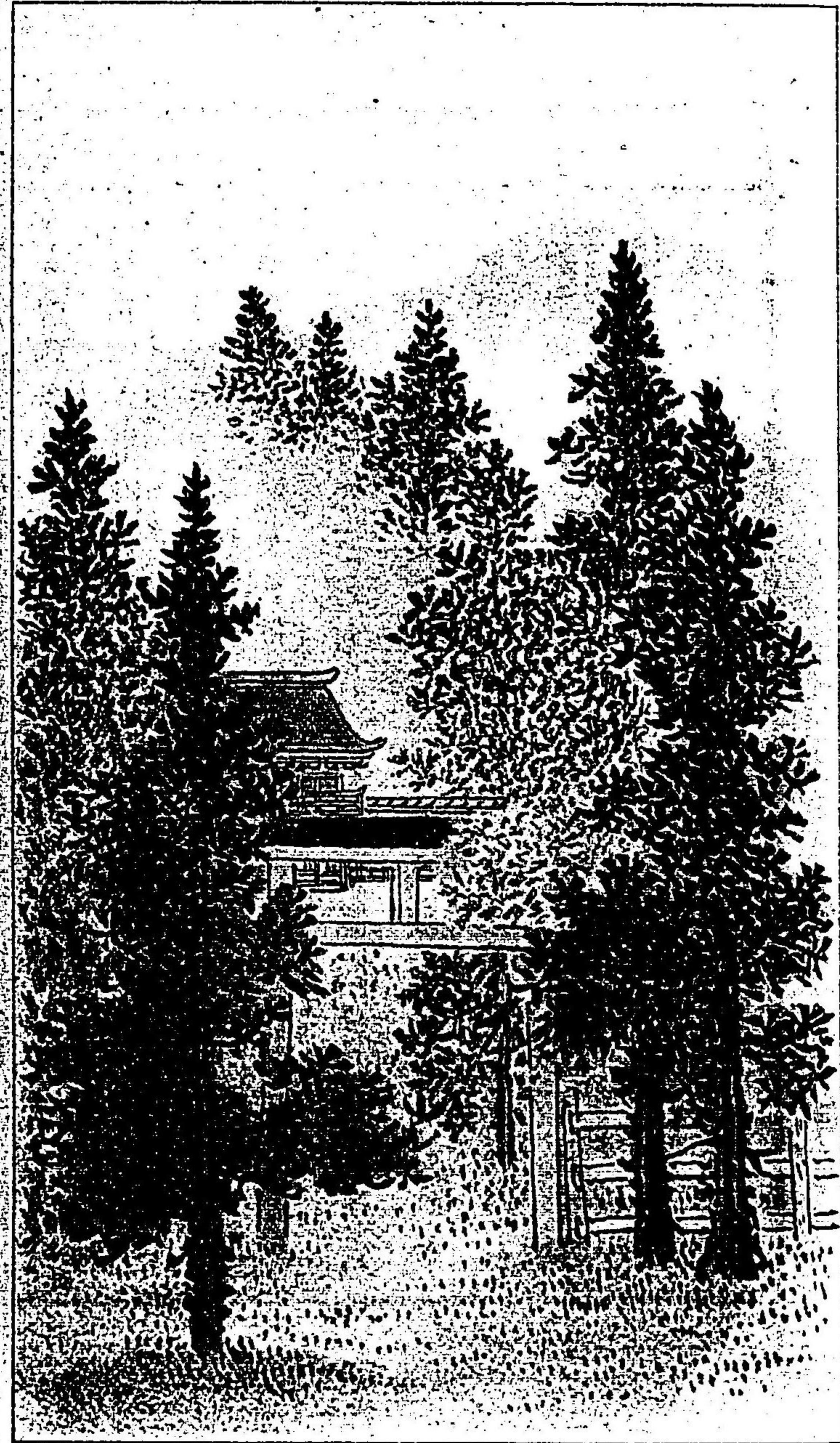
は繪畫書彫刻陶磁器七寶燒織物染物刺繡金屬器漆器詩繪等なり

梨木神社上京區寺町 別格官幣社にて贈右大臣三條實

萬公を祀る實萬公は故内大臣三條實美公の父にて光格孝明の二朝に歴仕し勤王の志篤く嘉永六年外艦の渡來以降大に公武合體を斡旋せしが孝明天皇水戸侯に攘夷の敕書を下賜せられしより幕府の爲に忌憚せられ遂に一乗寺村に閑居し後安政六年五月薨去す

●梨木神社の東に遣迎院廬山寺淨華院等の寺あり淨華院は淨土宗四個本山の一にて其始め清和天皇の敕

下 賀 茂



○相國寺 ○同志社

百三十四

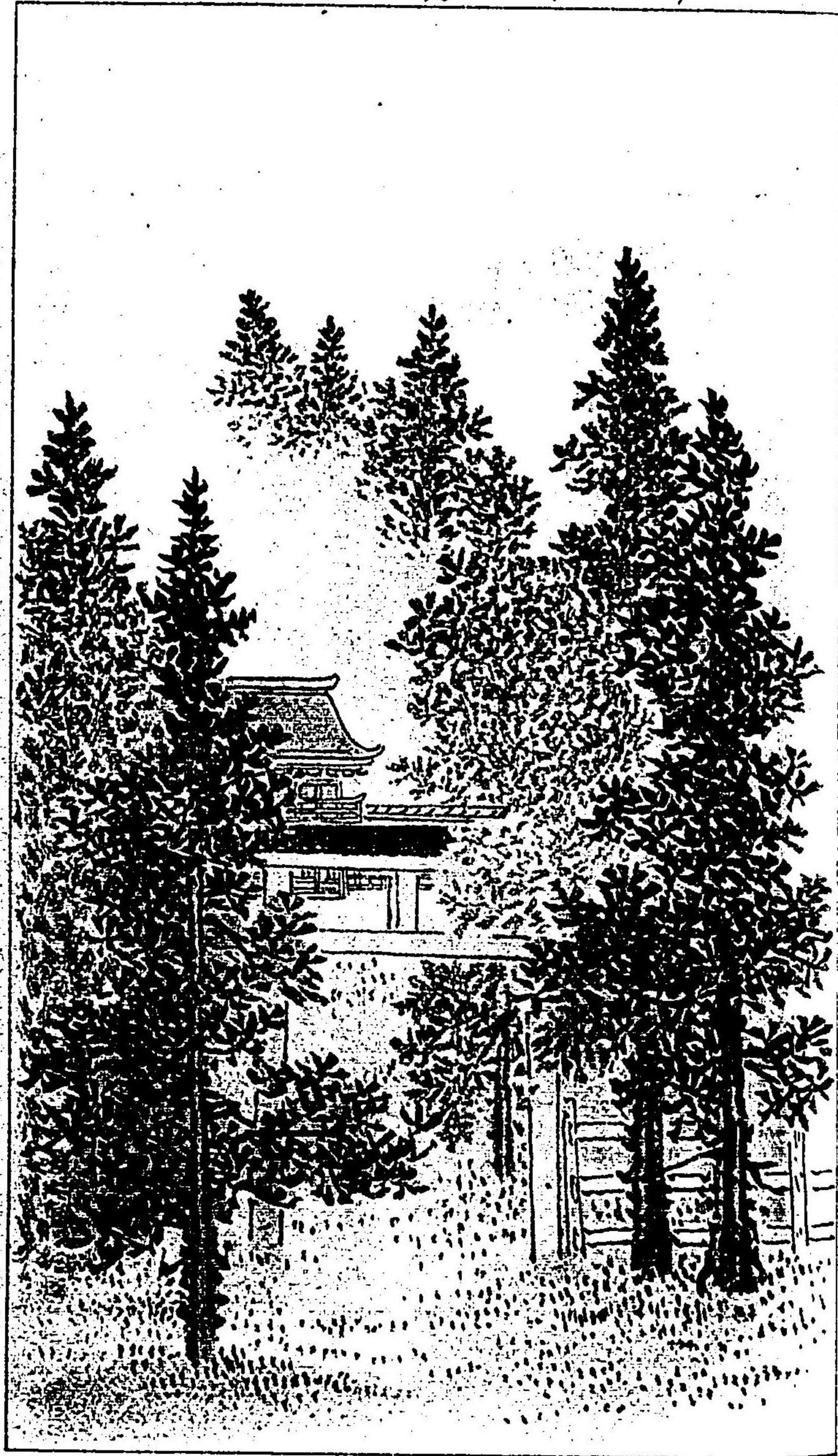
願所なりしが圓光大師これを中興せり前年火災に罹り佛殿焼失せり

相國寺川上京區西今出 禪宗の大寺にて京都五山の一なり
 永徳三年足利義滿の創立にして夢想國師の開基なり
 佛殿には釋迦阿難迦葉達磨大元等の像を安置す鐘樓
 あり南都元興寺より移せし鐘を懸く佛殿の西に齒髮
 堂あり後水尾天皇の御齒髮を納めし所なり又塔中普
 光院には藤原定家の塔あり當寺の什寶にも著名なる
 もの多し

同志社川上京區今出

私立學校にして明治八年新嶋襄氏

下 賀 茂



○相國寺 ○同志社

百三十四

願所なりしが圓光大師これの中興せり前年火災に罹り佛殿焼失せり

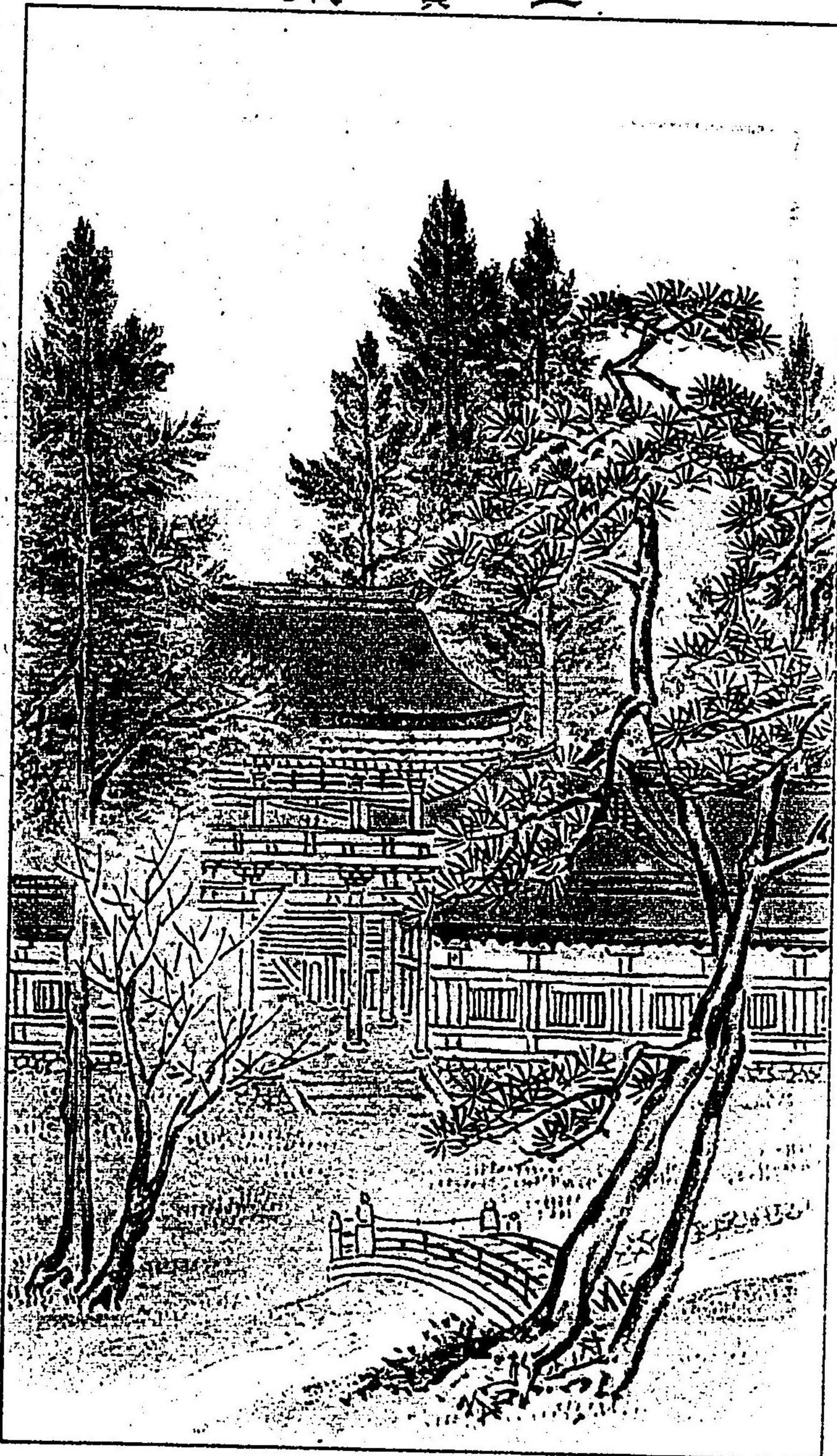
相國寺川上寺町西今出 禪宗の大寺にて京都五山の一なり
 永徳三年足利義滿の創立にして夢想國師の開基なり
 佛殿には釋迦阿難迦葉達磨大元等の像を安置す鐘樓あり南都元興寺より移せし鐘を懸く佛殿の西に齒髮堂あり後水尾天皇の御齒髮を納めし所なり又塔中普光院には藤原定家の塔あり當寺の什寶にも著名なるもの多し

同志社川上京區今出

私立學校にして明治八年新嶋襄氏

の創設なり校舎は概ね煉瓦石造にして頗る華麗なり
校内は普通學校神學校理化學校女學校等に區劃せり
上御靈神社 上京區御 祭神 下御靈に同じ本社八座蓋し
皆罪なくして死し怨魂屢災害を起せしにより貞觀五
年藤原基經に敕して御靈會を神泉苑に修し至徳二年
御靈神に正一位を授けらる又近古朝廷の崇敬厚く内
侍所の權殿を賜りて社殿を修造し現今祭事に用ふる
神輿の如きも後陽成後西院兩帝の納付といふ特に維
新前神輿今出川門前を通御の時陛下親しく朔平門内
より御拜金幣を賜ふを例とせり

上 賀 茂

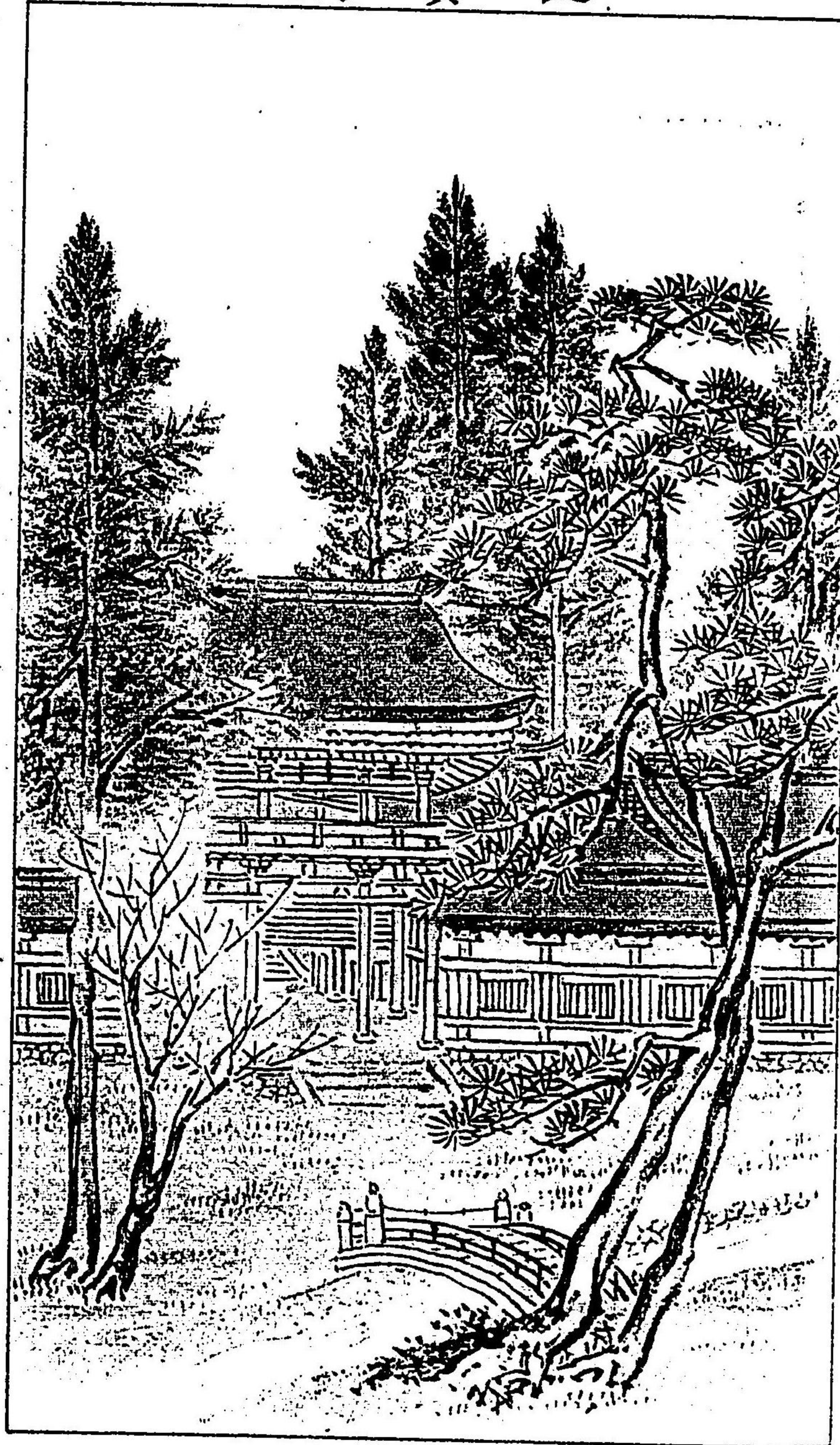


○下加茂神社

百三廿六

下加茂神社 愛宕郡 官幣大社の一にして玉依姫命及び
 大山咋命を祭る 欽明天皇の御宇創て祀り給ひし所に
 て白鳳五年始て殿社を造營せられしといふ 桓武天皇
 遷都以來歴代の天皇崇敬厚く 履行幸の事あり 殿社樓
 門頗る壯麗にして古代の式を存す 境内老松古杉陰鬱
 として幽邃清深なり 社頭に糺森あり 靈泉涌出す 其水
 清冽にして下流を御手洗川といふ 夏時納涼によし 又
 此社の入口に河合社あり 又櫻馬場あり 毎年六月五日
 競馬の催あり 本社例祭は世に名高き葵祭にして 毎
 年五月十五日内裏より奉幣使を遣し 盛に祭典を擧げ

上賀茂



○下加茂神社

百廿六

下加茂神社 下加茂郡 官幣大社の一にして 玉依姫命及び
 大山咋命を祭る 欽明天皇の御宇創て 祀り給ひし所に
 て 白鳳五年始て 殿社を造營せられしといふ 桓武天皇
 遷都以來 歴代の天皇崇敬厚く 屢行幸の事あり 殿社樓
 門頗る壯麗にして 古代の式を存す 境内老松古杉陰鬱
 として 幽邃清深なり 社頭に 糺森あり 靈泉涌出す 其水
 清冽にして 下流を御手洗川といふ 夏時納涼によし 又
 此社の入口に 河合社あり 又櫻馬場あり 毎年六月五日
 競馬の催あり 本社例祭は 世に名高き 葵祭にして 毎
 年五月十五日内裏より 奉幣使を遣し 盛に祭典を擧げ



祭 墓



らる京都祭禮中最も古雅優美なるものといふべし
 上加茂神社上愛宕村 官幣大社にして祭神は別雷神なり
 下加茂社と同じく桓武天皇遷都以前より鎮座せし古
 社にて今の殿舎は寛永五年の修造なり境内古木鬱蒼
 として御手洗川の清流神前を繞る例祭は下加茂と同
 日にして奉幣使先づ御祖神社に下向しそれより行装
 を整へ更に本社に参拜するを例とす又六月五日には
 社内に競馬の神事あり堀河天皇の時より始まりし舊
 式なりといふ

● 上加茂より十五六町東に往けば松崎に至る松崎に

○ 上加茂神社

は本涌寺あり松崎より又北十三四町にして岩倉村あり又その東に長谷あり●鞍馬山及び貴船神社に往くには上加茂村より直に市原村に出でそれより野中村二瀬村を経て鞍馬山に至る市原村には小野寺あり又小野小町の墓等あり

本涌寺松崎村 法華宗にして日生上人の開基なり寺内に大黒天あり甲子の日には參詣人多し又此寺の西に妙泉寺あり亦同宗にて毎年八月十六日の夜村内の男女堂前に群をなし法華の題目を唱へ亂舞夜を徹して止ま老後山に大文字送火の如く妙法の二字を點火し

て聖靈會に供す其光京都より分明に望むことを得べし

●上加茂より松崎に至る間に御泥池あり又松崎より岩倉に出る中間に松崎淵ありいづれも大池にして初夏の頃には蓴菜の名産を出す

實相院岩倉村 圓融天皇の御宇戸部納言文範をして創立せしめ給ふ寺にて開基は智辨僧正なり本尊は金色等身十一面觀音にして行基菩薩の作なり當寺は紫雲山の中腹にあり松杉鬱茂して風景頗る幽寂なり院の東に石座明神の祠あり桓武遷都の時四方に石藏を造

り經王を納めし其一にして岩倉の名これより起れり
といふ又院の北に昌子内親王の陵あり

●又岩倉村に故右大臣岩倉具視公閑居の別荘あり傍
に公の遺髪の碑を建つ

●又岩倉村の東に長谷八幡宮あり應神天皇を祭る
鞍馬山鞍馬郡 京都北方の名山にして三條大橋を距る

こと凡三里なり山上に鞍馬寺あり天台宗にして延暦
十六年大中大夫藤原伊勢人の草創なり本尊は毘沙門
天にして毎月寅日は參詣人多し全山檜杉鬱茂して夏
尚寒さを覺ゆ又櫻樹多くあり風景甚幽艶なり源牛若

丸の住せしといへる東光坊の舊跡あり又西の方貴船
に下る間に僧正谷あり牛若丸劍法修行の舊跡なりと
いふ

貴船神社愛宕郡鞍馬村 官幣中社にして水神罔象神を鎮

祭すいにしへより雨を請ひ晴を祈るに應驗著しとい
ふ社殿二個所あり下の社奥の社といふ相距ること五
町餘其西に天岩船あり石を積で船形を成す御手洗川
あり和泉式部の螢を詠せし故跡なり(物おもへば澤
邊の螢わが身よりわくがれいづる玉かどぞ見る和泉
奥山にたざりておつる瀧つせの玉ちるばかり物な思

ひそ明神

今宮神社 宇東郡紫竹大宮村 素盞鳴命及び稻田姫命を合祀す
 初め正暦五年疫神を船岡山に祭り長保五年に至りて
 現今の地に遷す若狭川の流を前にし森林を背にす正
 殿拜殿齋院神樂殿御供所等あり例祭は毎年五月十五
 日にして船岡山の東方なる御旅所に神幸あり又四月
 十日には夜須禮祭と稱し近傍の村民異様の扮装をな
 し鉦鼓を鳴らし喧騒連呼して社頭を廻るの神事あり
 大徳寺 村紫竹郡大宮 禪宗臨濟派の大寺なり開基は大燈
 國師にて後醍醐天皇の本願正中元年の創建なり境内

は番松深く寺院を鎖し幽邃の景いふべからむ山門は
 連歌師宗長の建造にして千利休その樓閣を修補し己
 の影像を置き圖らむ罪を豐太閤に得たる事あり法堂
 及び佛殿は赤松圓心の建營せし所にて方丈の門は明
 智光秀の寄進なり又一休禪師の舊居は寺内の具珠庵
 にして法堂の左にあり其遺物を藏せり方丈及び其他
 の塔頭にも古名畫の什寶多し
 ●大徳寺の東なる野を紫野といふ又雲林院あり淳和
 天皇の行宮にて後僧正遍照に賜ひしなりといふ今は
 荒廢せり

○大徳寺

金閣寺



○建勳神社 ○金閣寺

百四十四

建勳神社愛宕郡大宮村 別格官幣社にして織田信長を祭る後の山を船岡山と稱し梅樹多く眺望絶佳なり此地應仁の役には西軍の屯駐する所となり屢修羅の巷となりたりとぞ

金閣寺村野郡北山 鹿苑寺と號す足利義滿の山莊にして後ち寺院となれり開基は夢想國師なり林泉は奇石多く九山八景といふ風景幽雅清秀なり三層の閣あり即ち金閣にして下層を法水院といひ中層を潮音洞といひ上層を究竟頂といふ天井は三間四方の一枚板を以て張り閣の四面金箔を貼りたりしも今は落剝し

金閣寺

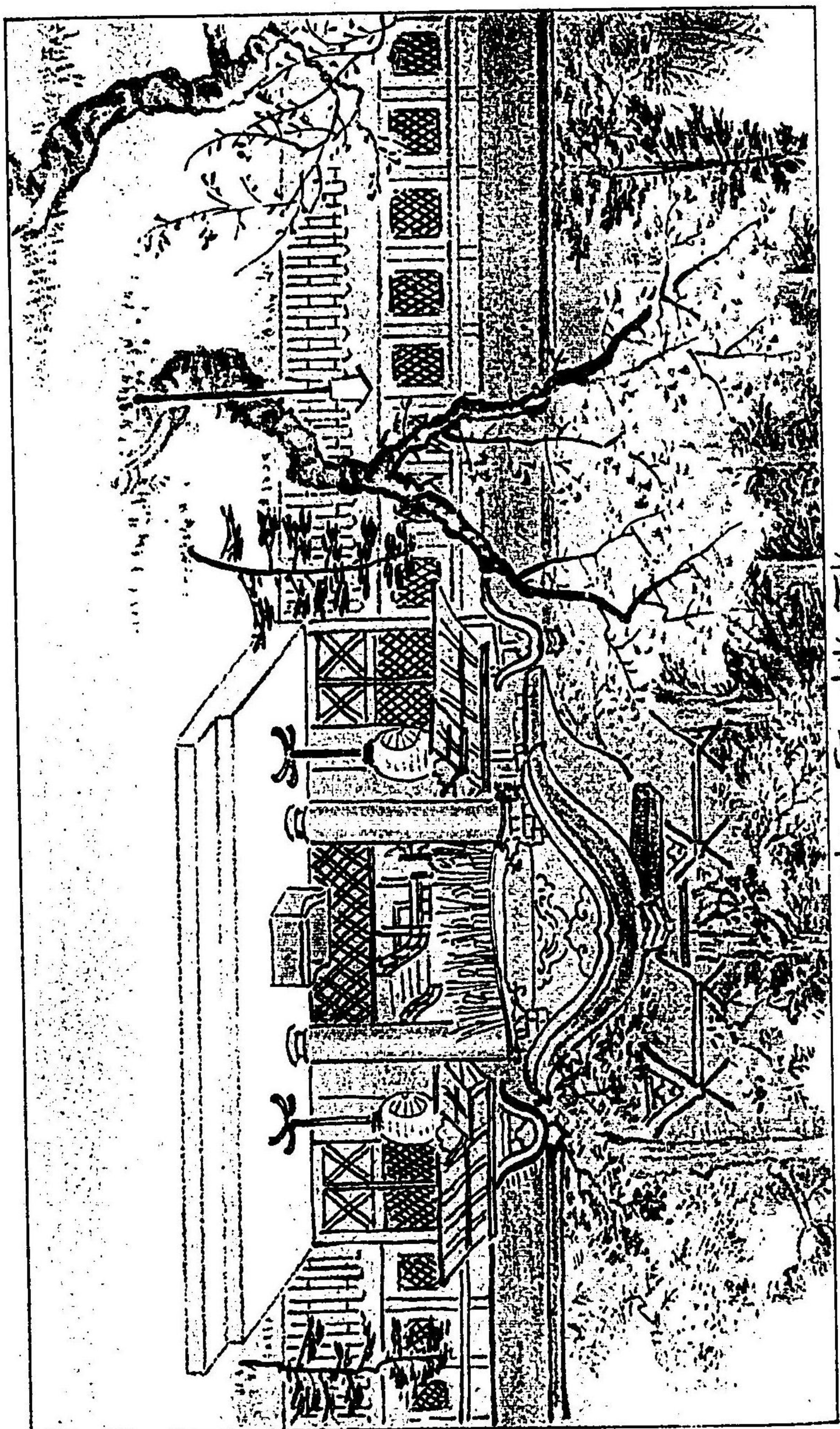


○建勳神社 ○金閣寺

百四十四

建勳神社宇愛宕郡大宮村 別格官幣社にして織田信長を祭る後の山を船岡山と稱し梅樹多く眺望絶佳なり此地應仁の役には西軍の屯駐する所となり屢修羅の巻となりたりとぞ

金閣寺村野郡北山笠 鹿苑寺と號す足利義満の山莊にして後の寺院となれり開基は夢想國師なり林泉は奇石多く九山八景といふ風景幽雅清秀なり三層の閣あり即ち金閣にして下層を法水院といひ中層を潮音洞といひ上層を究竟頂といふ天井は三間四方の一枚板を以て張り閣の四面金箔を貼りたりしも今は落剝し



平野神社

て儘に殘痕を止むのみ又茶室あり其床柱は南天樹
 を用ひ違棚は胡枝花の枝を編みたり其他庭園林泉の
 巧妙なる造に銀閣寺に勝れり又鏡石あり金閣寺の北
 紙屋川の上にあり石面鏡の如く影を寫すを以て名く
 平野神社村野北山官幣大社なり桓武天皇延暦四年
 の創建にして今木神久度神古開神比咩大神を祭る南
 に一社あり縣社といふ祭神は天穗日命なり境内櫻樹
 に富み其種類の多き數百種に下らむ開花爛熳の候に
 は酒鋪茶店花間に假小屋を構へ毎夜篝火を燒き雅俗
 群をなし頗る雜遝を極むこれを平野夜櫻といふ

北野神社



○北野神社

百四十六

北野神社一御前通 官幣中社にして菅原道真公を祭る別
 にその嗣子菅中將を本殿の東に鎮しその室吉祥女を
 西に合祀せり初め天慶五年菅神七條の一賤女文子に
 托して右近馬場に居らんことを告げ給ふその後五年
 を經て尙神祠をその地に造營するものなし天曆元年
 文子始て自ら小祠を北野に建立し同九年に至り江州
 朝日寺の僧最珍文子と謀りて始て社殿を興せり是よ
 り此社の靈驗著しく天徳三年に及び右大臣藤原師輔
 更に大夏を構築して神威を輝かしたり天徳以降今に
 至るまで九百餘年その間社殿を改築すること數次に

北野神社



○北野神社

百四十六

北野神社一御前北 官幣中社にして菅原道真公を祭る別
 にその嗣子菅中將を本殿の東に鎮しその室吉祥女を
 西に合祀せり初め天慶五年菅神七條の一賤女文子に
 托して右近馬場に居らんことを告げ給ふその後五年
 を經て尙神祠をその地に造營するものなし天曆元年
 文子始て自ら小祠を北野に建立し同九年に至り江州
 朝日寺の僧最珍文子と謀りて始て社殿を興せり是よ
 り此社の靈驗著しく天徳三年に及び右大臣藤原師輔
 更に大屋を構築して神威を輝かしたり天徳以降今に
 至るまで九百餘年その間社殿を改築すること數次に

及ぶ現今の社殿は豊臣秀頼の建造なり境内の廣さ又
 賽人の多き京都中獨り此社と稻荷神社とを以て第一
 とす梅樹多く尙年々これを増植す満開の頃は紅白繚
 亂たり十月四日は當社の祭禮にして三月廿五日には
 茶種御供の神事あり華表前忌明塔の西側に東向觀音
 あり本尊は梅櫻の二木を以て菅神みづから刻まれた
 る十一面觀音なりといふ
 西陣 應仁の亂に細川勝元の軍は室町幕府の東に屯し
 て東陣と稱し山名持豊の軍は其西に陣して西陣と稱
 せり現今西陣は當時山名氏の軍の屯せし所にして一

條以北堀川以西一帯の地を總稱す此地は世に有名な織物の産出地にして錦絲錦緞子縹子金襴紗毛宇留天鵝絨綸子羅紗縮緬羽二重その他各種の織物を製出し精巧華麗人目を驚すべきもの多し

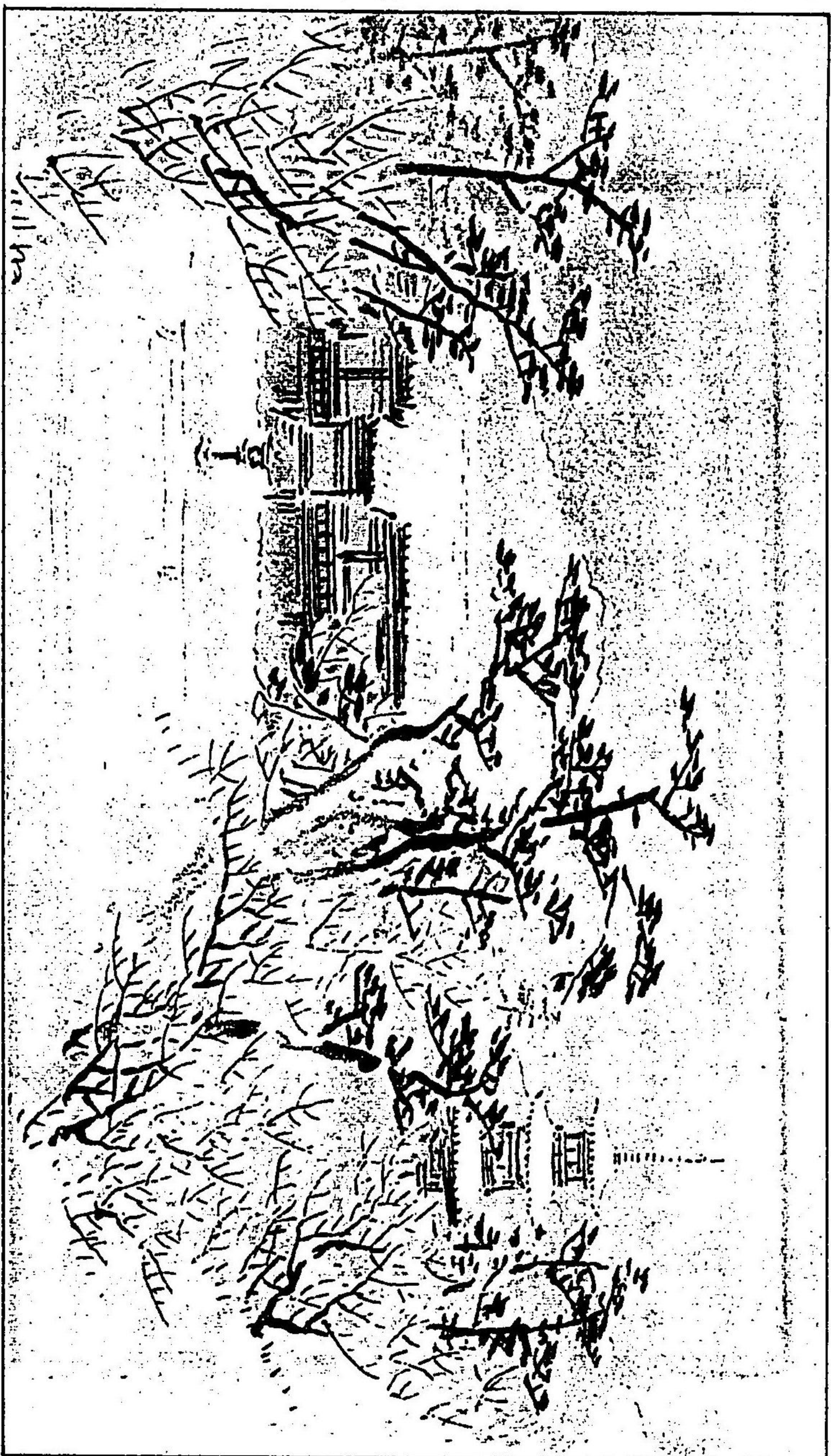
●北野神社門前を右近馬場と稱すこれより西に向へば等持院御室等西山に至るべく又市中の遊覽を爲すには南に往き聚樂廻りを過ぎ二條離宮神泉苑等に出づべし

等持院村字野郡花岡足利尊氏の創立にして夢想國師の開基なり足利氏累代の影像是當時の昭堂にあり皆東

帯佩劍の坐像なり維新王政革新の頃諸國の浪士幕府の專横を憤りこの木像の首を斬てこれを三條橋に梟せし事あり今安する所のものは其後收めて再び接合せしものなり

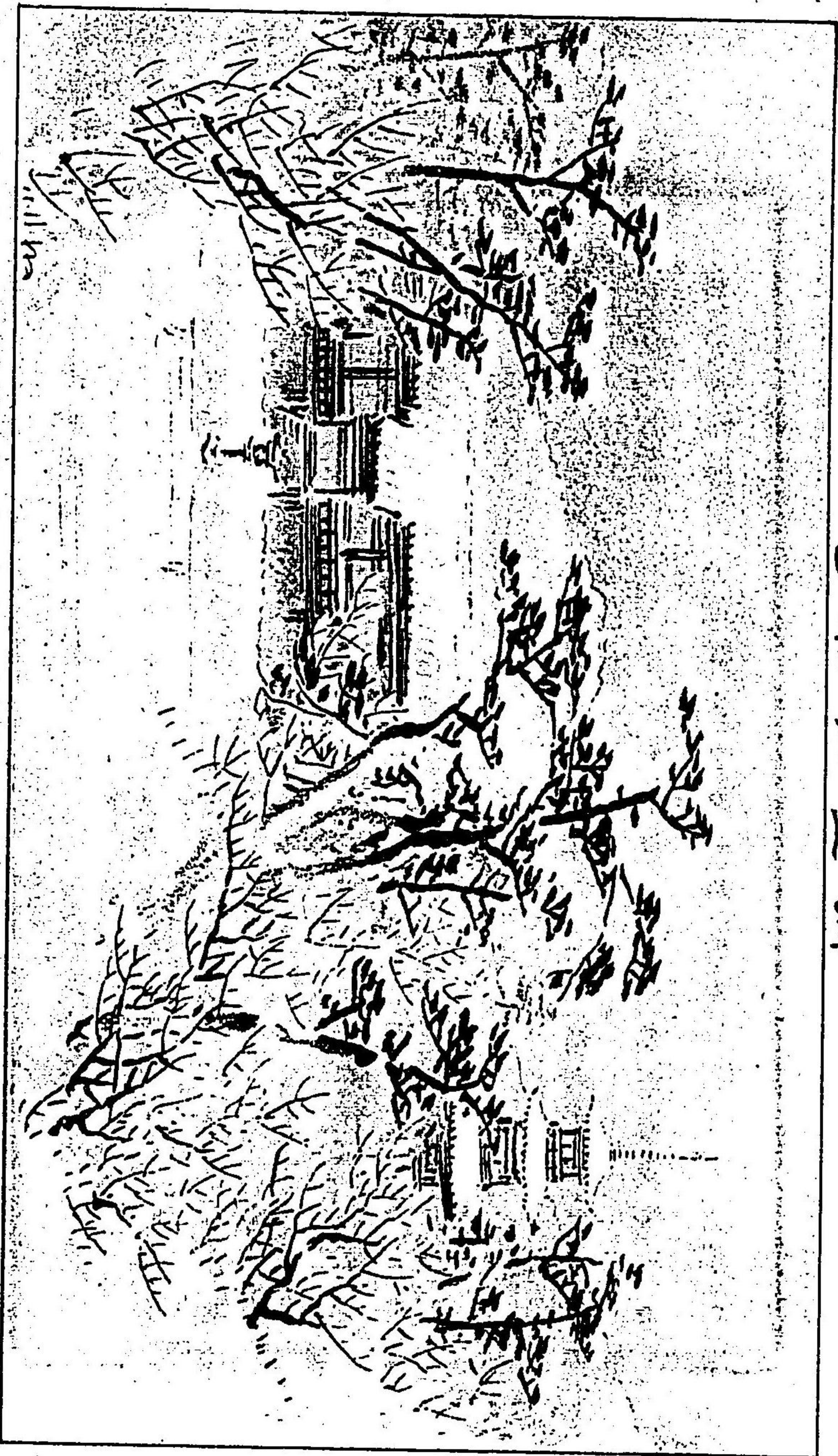
龍安寺村字野郡花岡細川勝元の建立にして義天和尙の開基なり本堂は舊と東福寺の昭堂を移せしものにして天井の蟠龍及び迦陵頻伽の畫は兆殿司の筆なり方丈は勝元の居館を以て直にこれに充て庭園の假山泉水皆その嗜好に據りて構造せりといふ園地には常に水鳥の來て游泳するもの多く古より龍安寺の鴛鴦と

稱して京都の一勝景たり
 妙心寺花野村 初め清原左大臣夏野の別業なりしがそ
 の後花園上皇深く此地の風景を愛し茲に離宮を營み
 閑居の地となし給へり尋で上皇大に佛法を信じ遂に
 離宮を廢し寺となし正法山妙心寺と名け關山禪師を
 して開基となさしめ給ふ寺内の一院玉鳳院は當時上
 皇の隠栖し給ひし故跡なり又萬里小路藤房卿遁世し
 て此寺に入り授翁と號し關山禪師の法脈を繼ぎたり
 といふ塔頭には茶室林泉の頗る幽雅なるもの多し又
 當寺の什寶の中には有名なる畫あり



寺和仁聖御

稱して京都の一勝景たり
 妙心寺花田野村 初め清原左大臣夏野の別業なりしがそ
 の後花園上皇深く此地の風景を愛し茲に離宮を營み
 閑居の地となし給へり尋で上皇大に佛法を信じ遂に
 離宮を廢し寺となし正法山妙心寺と名け關山禪師を
 して開基となさしめ給ふ寺内の一院玉鳳院は當時上
 皇の隱栖し給ひし故跡なり又萬里小路藤房卿遁世し
 て此寺に入り授翁と號し關山禪師の法脈を繼ぎたり
 といふ塔頭には茶室林泉の頗る幽雅なるもの多し又
 當寺の什寶の中には有名なる畫あり



寺和仁風御

●妙心寺の西に雙岡あり此山に清原夏野の山莊あり
て淳和天皇行幸ありし事あり今は只長泉寺といへる
寺あるのみ又兼好法師頓阿法師も此岡に住せりとい

仁にん和わ寺てら野の郡ぐん花はな園えん 眞言宗の大寺なり光孝天皇仁和小
年の創建にして宇多天皇御落飾の後當寺に入り宮殿
を造營し給ひしより御室又大内山の稱ありその後朱
雀天皇讓位ありてまた此に宸居を定め給ひしより爾
來法親王の住職し給ふ所となれり維新前には小松宮
彰仁親王嘗て此に住せられし事あり堂宇は前年火災

に遭へり近年仁和會なるもの起り再建に着手せり境内廣潤にして櫻樹林をなす春時開花の頃には爛熳雲霞を望むが如し且つ當時の櫻花は重瓣にしてその種類通常のものに異り殊に艶麗なり

●仁和寺より宇多村を過ぎ平岡村妙善寺梅畑村等を經て高雄に至る道程凡一里半あり

高雄神護寺梅畑村 和氣清麻呂公の章創にて初め神願寺と稱し淳和天皇天長二年これを弘法大師に賜ひ神護寺と改號せり境内所々に名跡多く樓門前坂路の傍にゐる額書石は弘法大師嘗て救を受けて清瀧川の暴

漲を隔て對岸に額を立てしめ石上より筆を抛ちて金剛定寺の額を書したる所なりと云傳へり納涼坊もまた弘法大師の故跡にて文覺上人の住せしもの坊なり今尙同大師及び上人の影像を掲ぐ鐘樓は板倉勝重の再建にて鐘は本朝三絶といひ橘廣相の序菅原是善の銘藤原敏行の書なり奥の地藏院は境内好景第一の地にして清瀧川の溪流眼下に横はり紅楓兩畦を擁し灼爛人目を眩す當寺に和氣清麻呂公を祭りたる護王神社ありしが維新後上京區烏丸通下長者町の南に移し別格官幣社に列せらる

尾 之 楯



○横尾西明寺

○梅尾高山寺

百五十四

横尾西明寺上

高雄より溪流に浴ひ上ること數町對岸

の山腹にあり弘法大師の徒弟智泉法師の開基にして

正忍律師の中興なり律宗にして眞言宗を兼ね三尾高

雄の内此山楓樹少しといへども樹木陰森として幽

邃の佳趣に富めり

梅尾高山寺上

醍醐天皇の時尊意僧正の開基せし所に

て舊と天台宗なりしが明恵上人これを中興してより

華嚴宗となる佛堂は前年火災に罹り現今は僅に假堂

を設くるのみ當山は三尾中の最北にありて清瀧川の

溪流を帯び兩岸到る處楓樹ならざるはなし堂前より

尾 之 柵



○ 榎尾西明寺

○ 榎尾高山寺

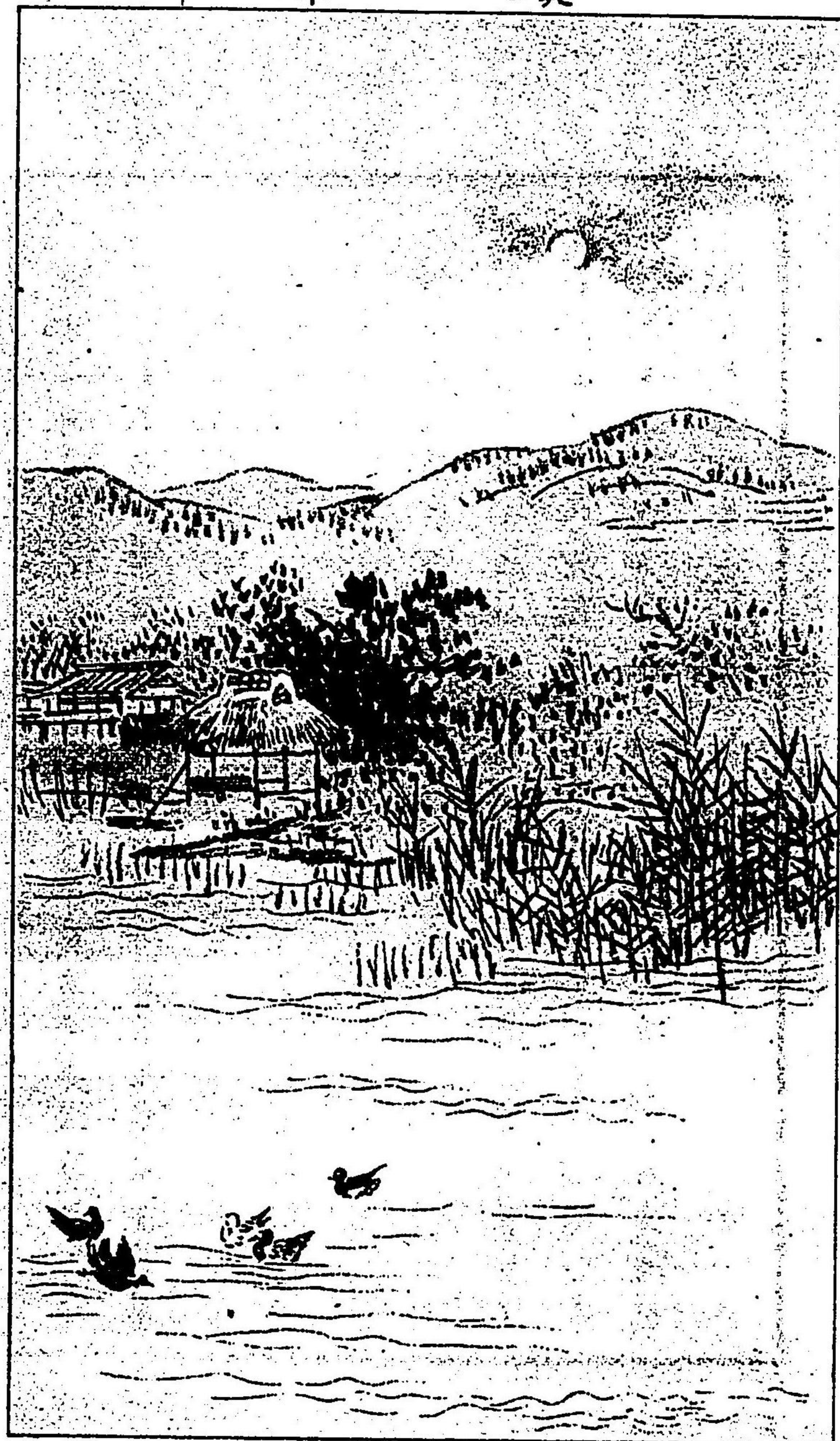
榎尾西明寺上 高雄より溪流に沿ひ上ること數町對岸
 の山腹にあり弘法大師の徒弟智泉法師の開基にして
 正忍律師の中興なり律宗にして眞言宗を兼ね三尾高
 榎尾の内此山楓樹少しといへども樹木陰森として幽
 邃の佳趣に富めり

榎尾高山寺上 醍醐天皇の時尊意僧正の開基せし所に
 て舊と天台宗なりしが明恵上人これを中興してより
 華嚴宗となる佛堂は前年火災に罹り現今は僅に假堂
 を設くるのみ當山は三尾中の最北にありて清瀧川の
 溪流を帯び兩岸到る處楓樹ならざるはなし堂前より

溪壑を俯瞰すれば紅葉碧流相映帯して滿溪蜀錦を織
れるが如し此地は明恵上人の始て宋國より將來の茶
實を植ゑたる所にて後足利氏の時これを宇治に移し
遂に現今の如く山城の茶の盛なるを致せりといふ
●高雄より再び東南に戻りて宇多村に出で更に西行
せば上嵯峨に赴くことを得べし又南に往けば太秦に
出づ

太秦廣隆寺 太秦野郡 三論眞言宗にして聖德太子秦川勝
に命じて創建せしめたる所なり當寺安置する佛像中
甚著名なるもの多く藥師堂の觀音は推古天皇の時百

廣澤



○廣澤池 ○大澤池

百五十六

濟國より獻納せし所彌勒像は新羅國より渡來せしものなりとぞ京都近傍中最も古き寺院にして佛像等の古名作あるは此寺に限れり

廣澤池嵯峨野郡池の周廻凡そ十二町ひかし寛朝僧正の

開鑿する所なりといふ古來より觀月の勝地にして月

夜の眺望最も佳絶なり古人の詠歌多し

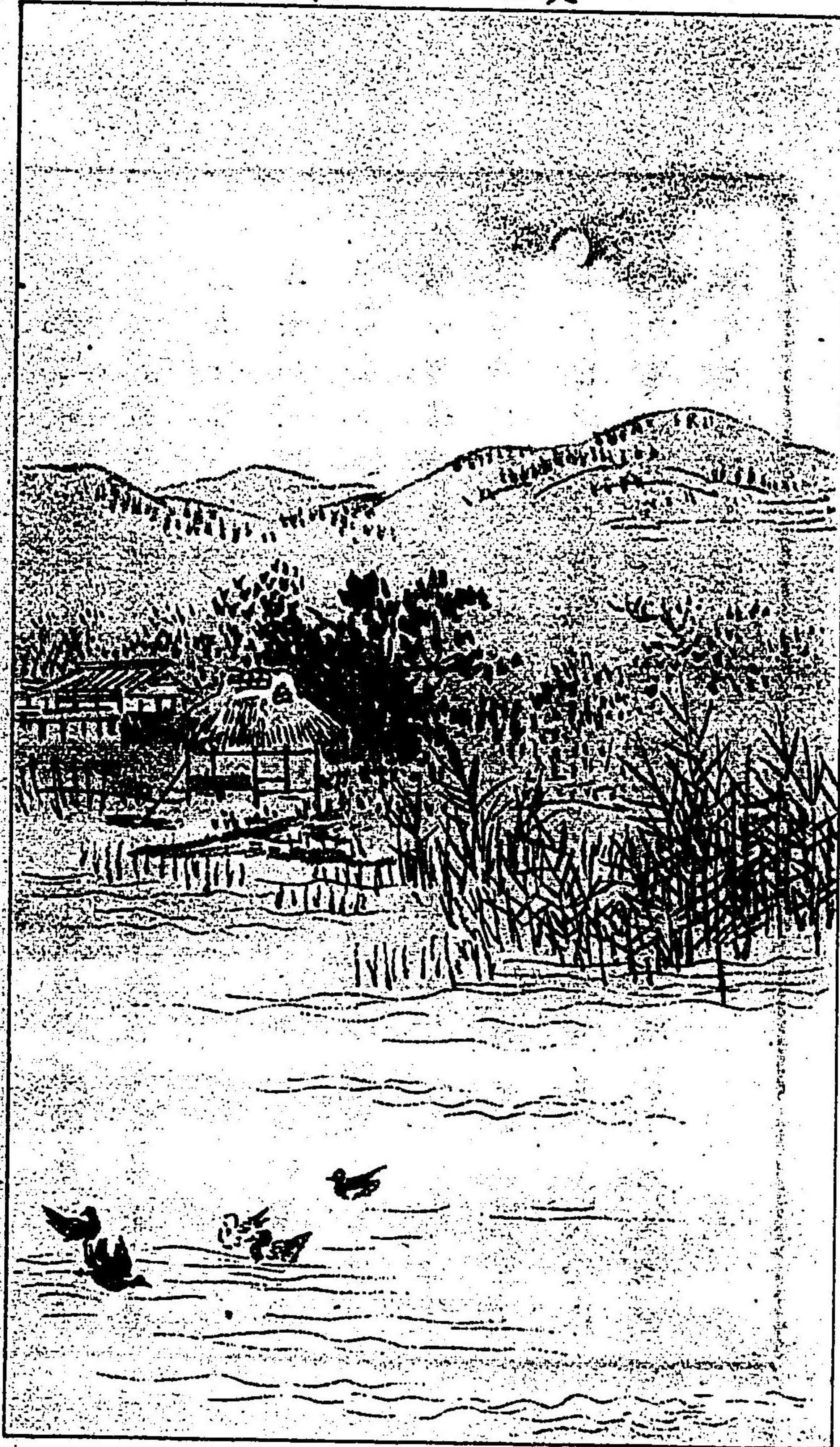
大澤池同舊と嵯峨天皇離宮の境内に屬し奇石甚だ多

かりしが後世開院の内裏に移されたりといふ池中に

一小嶼あり菰嶋といふまた觀月の名所なり大澤池の

西に大覺寺あり

廣 澤



○廣澤池 ○大澤池

百五十六

濟國より獻納せし所彌勒像は新羅國より渡來せしものなりとぞ京都近傍中最も古き寺院にして佛像等の古名作あるは此寺に限れり

廣澤池 嵯峨野郡 池の周廻凡そ十二町ひかし寛朝僧正の

開鑿する所なりといふ古來より觀月の勝地にして月

夜の眺望最も佳絶なり古人の詠歌多し

大澤池 同 舊と嵯峨天皇離宮の境内に屬し奇石甚だ多

かりしが後世閑院の内裏に移されたりといふ池中に

一小嶼あり菊嶋といふまた觀月の名所なり大澤池の西に大覺寺あり

大覺寺上 眞言宗の寺なり舊と嵯峨天皇の離宮にして
 嵯峨院と稱せり天皇崩御の後池庭臺榭荒廢せしが淳
 和天皇これを修築して寺となし恒寂法親王をして開
 基となさしめ給ふこれより以降代々法親王の住所と
 なりたり境内松樹鬱茂して風景幽靜なり又門前に胡
 枝花多し
 清凉寺上 五臺山と號し俗に釋迦堂と唱ふ本尊釋迦佛
 は釋迦在世の日赤栴檀の香木を以て毘首羯摩の作り
 しものにて一條天皇の時僧裔然宋國より將來せし
 のと云傳ふ釋迦堂の西に祇王祇女の墓あり

○大覺寺 ○清凉寺

●清涼寺門前より北西に向ふ路あり愛宕山に至るべし行程凡そ二里あり山徑峻隘なり清涼寺より十町餘にして一の鳥居ありこれより試坂を越え清瀧川を渡り凡そ四十町餘の坂路を登る

愛宕山 山城丹波に跨る所の高山にして山嶺の眺望城丹二州の山川都邑を雙眸の中に攬ひその壯觀名狀すべからむ山上に愛宕神社あり伊弉册尊火産靈尊を祭り雷神破元神を合祀す此社は光仁天皇天應元年に僧慶俊洛北鷹峯より此に移せしといふ別に太郎坊社飯綱社子守勝手社八天狗社春日社十二天社等その附近

にあり

●愛宕山より再び故の道に戻れば二尊院の前に出づ

二尊院 嵯峨野村 小倉山と號す小倉山は古來楓樹多きを以て其名著はる當寺は天台眞言律淨土の四宗を兼學し阿彌陀佛釋迦牟尼佛の二像を並べ安するを以て二尊院と稱す境内に影堂龍女池辨財天祠及び嵯峨土御門後奈良三帝の御塔法然上人の塔等あり其他貴人名卿の墓多し

●此邊の野を嵯峨野と稱し古來歌人詩士の吟咏せし處なり又釋迦堂より二尊院に至る間は定家卿小倉山

嵐 山



○常寂寺 ○野宮 ○天龍寺

百六十

莊の遺跡なりといふ二尊院の南に常寂寺野宮等あり
 (名にめでよみおれるばかりど女郎花われたちにさと人
 にかたるな遊園正かり人の草わけをろもほしむあへき
 秋の嵯峨野の四方の白露院順徳)

常寂寺上 法華宗にして本國寺の僧日禎上人の開基な

り寺内に定家の社あり又其什寶に高倉院より小督に

賜ひし車琴と稱する名琴ありと云傳ふ

野宮上 天照大神を祭るむかし内親王伊勢の齋宮に移

住し給ふ前に潔齋し給ひし所なりといふ

天龍寺上 禪宗五山の一にして足利尊氏の御醍醐天皇

嵐 山



○常寂寺 ○野宮 ○天龍寺

百六十

莊の遺跡なりといふ二尊院の南に常寂寺野宮等あり
 (名にめでよみれるばかりぞ女郎花われたちにさと人
 にかたるな遍昭かり人の草わけをろもはしむあへき
 秋の嵯峨野の四方の白露院順徳)

常寂寺上 法華宗にして本國寺の僧日禎上人の開基な
 り寺内に定家の社あり又其什寶に高倉院より小督に
 賜ひし車琴と稱する名琴ありと云傳ふ

野宮上 天照大神を祭るひかし内親王伊勢の齋宮に移
 住し給ふ前に潔齋し給ひし所なりといふ

天龍寺上 禪宗五山の一にして足利尊氏の御醍醐天皇

川 津 保



追福の爲に建立せし所にて開基は夢想國師なり伽藍
は維新前兵燹に罹り現今僅に假堂を存するのみ寺内
多寶院には御醍醐天皇の廟塔あり又天皇の御冠を藏
せり

嵐山上 龜山天皇の時大和吉野の櫻を此に移植せしな
りといふ満山櫻楓の二樹多く其間に翠松點綴して參
差柯を交へ春秋共に艶麗なり其風景の絶勝なる京都
第一たり又新緑の候には緑樹青葱として鮮美なり又
夏夜に飛螢を見るも趣あり又冬晨雪を觀るも奇なり
其他杜鵑鹿聲を聽くも亦興あり四時の麗景よく禿筆

の名状すべきにあらざらん。山下に大堰川ありこれに架するを渡月橋といふ。碧流一帯山水の清絶なるいふも愚なり。河流に舟を浮べて山下の温泉場に至るを得べし。又溯りて清瀧川の落合に至るその間奇岩怪石參差百出。飛泉あり激湍あり。又映山紅多くして六月頃には緑樹の間に鮮紅を點じ碧潭に映せるさまなごえもいはれぬ。嵐山の前岸に三軒茶屋あり。割烹と宿泊とを兼ね。杜鵬亭は最も西にあり。樓上より嵐山を眺望すべし。大堰川には鮎多し。舟を僦ひこれを漁する亦一興なり。大堰川の上流は即ち保津川の急流にして數人の舟夫

を雇ひこれを曳かしむるにあらざれば溯るを得ず。故に保津川の奇勝を探らんとするものは先づ別に陸行して丹波南桑田郡山本村に至り舟を雇てこれを下る。山峽凡そ三里水の高低に従ひ速力同じからざれども二時間餘にして下り得べし。

●嵐山の上に大悲閣あり。千光寺と號す。吉田了意の開基なり。了意は水理の術に精しく大堰川を開鑿し舟を丹波保津に通せり。又高瀬川を疏鑿して鴨川より伏見に通せしも此人なり。

法輪寺上 聖武天皇天平六年の建立にして僧道昌これ

を中興せり本尊は虚空藏菩薩なり世俗十三詣りと唱へ男女十三歳に及べば四月十三日この虚空藏に賽して智福満を祈るといふ法輪寺の東南に松野神社あり

松野神社 松尾郡 官幣大社にして大山咋神市杵嶋姫神を祭る和銅二年加茂より遷し大寶元年神殿を創建せりといふ境内竈殿厨所神服殿等あり洛西第一の大社たり此神は世に酒造の神と稱し酒造家の最も信仰するところなり松野神社の東北に梅宮神社あり

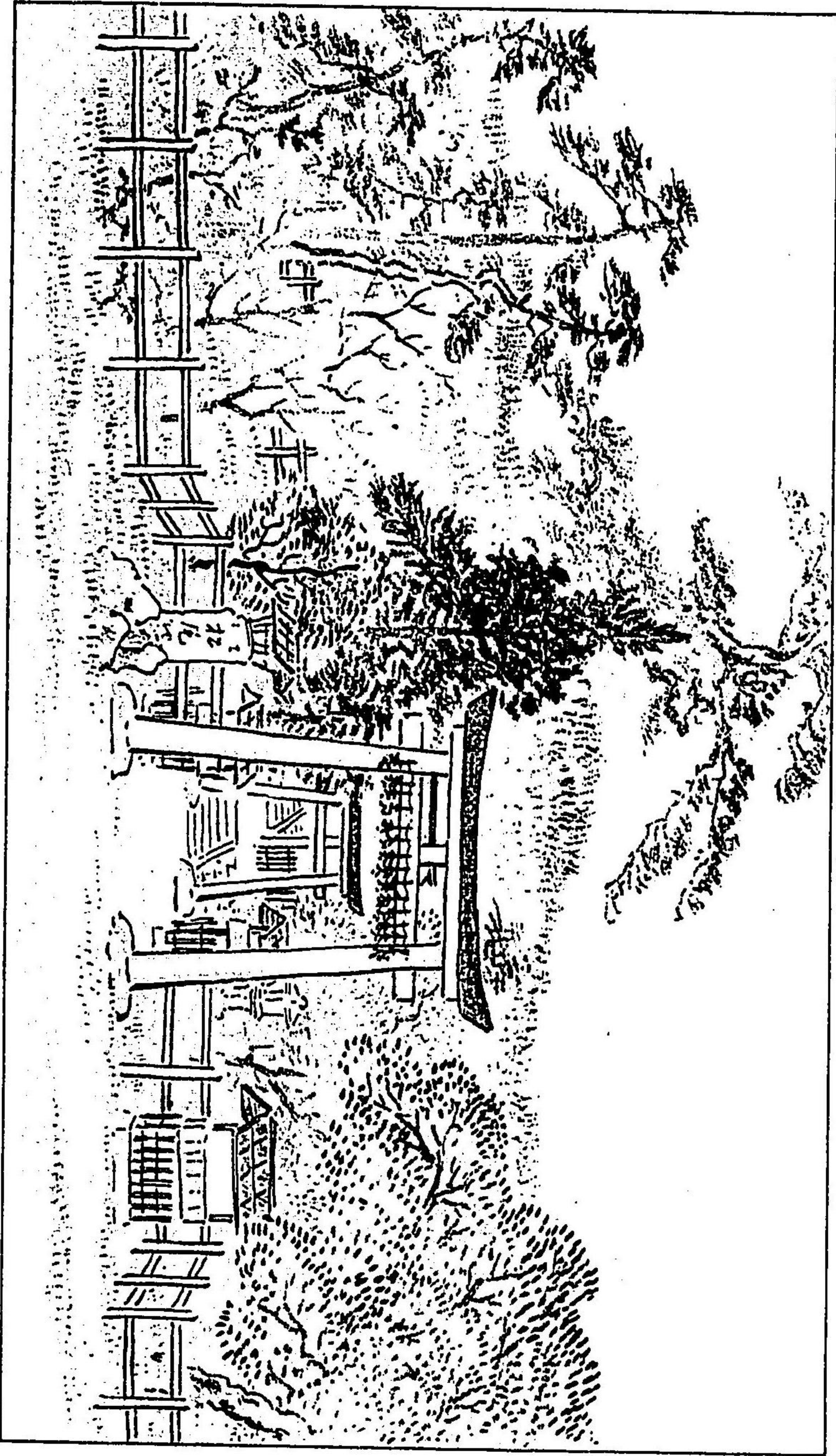
梅宮神社 梅津郡 官幣中社にして酒解神大若子神小若子神酒解子神を祭るひかし嗟峨天皇の后檀林皇后御

社神尾松



を中興せり本尊は虚空藏菩薩なり世俗十三詣りと唱へ男女十三歳に及べば四月十三日この虚空藏に賽して智福満を祈るといふ法輪寺の東南に松野神社あり
 松野神社松尾野郡 官幣大社にして大山咋神市杵嶋姫神を祭る和銅二年加茂より遷し大寶元年神殿を創建せりといふ境内竈殿厨所神服殿等あり洛西第一の大社たり此神は世に酒造の神と稱し酒造家の最も信仰するところなり松野神社の東北に梅宮神社あり
 梅宮神社梅津野郡 官幣中社にして酒解神大若子神小若子神酒解子神を祭るひかし嵯峨天皇の後榎林皇后御

社神尾松



子なさを愛ひ酒解神に祈りて姪身し給ふ仁明天皇これなり今も婦人の産月に臨むもの當社の土砂を佩びてその平産を祈る境内櫻樹多く又池あり風景佳麗なり

●梅宮神社を出で東に向へば京都四條通の西端に至る

桂離宮桂野郡 豊臣秀吉智仁親王桂宮の始祖の爲に諸侯に課して造進したる所の殿舎なり書院茶室等みな良材を以て構造し屏障には名畫を貼附すその壯麗人目を驚かすに足れり林泉は金森宗和小堀宗甫の意匠を凝

せしものにて奇石嘉木の排置皆妙を盡さるはなく
幽雅清秀の景勝ふるに物なし

大原神社 原野訓郡大 官幣大社なり祭神は奈良春日神社
と同體にして武甕槌神經津主神天兒屋根命姫神の四
靈を祀る文徳天皇仁壽元年春日神社の皇城に遠きを
以て皇太后后救して此に鎮座し給ひたりといふ左右
に廻廊あり殿宇頗る壯嚴なり例祭は毎年二月八日に
して救使の参拜あり大原や小鹽の山もけふこそは神
代の事も思ひいづらめ在原
勝持寺 原野訓郡大 花の寺と稱す役小角の開基にして文

徳天皇の時佛陀上人の中興せし所なり上人深く天皇
の崇信を蒙り終に敕願所とせられ大に伽藍を修造す
その後足利尊氏當寺を尊重して大に寺領を寄附せし
事あり本尊薬師佛及び左壇の毘沙門天は傳教大師の
作右壇の不動明王は役小角の作堂前左方の洞内に安
する不動石像は弘法大師の作なり又本堂の額勝持寺
の三字は小野道風の筆なり寺内西行櫻の故跡あり又
此邊の山を小鹽山と稱し古來より著名なり
●勝持寺より大原野村に出で石作村を過ぐれば粟生
村に至る粟生村に光明寺あり

粟生光明寺 粟生訓郡 報國山と號し念佛三昧院と稱す淨
 土宗西山派の大寺なり建久九年熊谷蓮生法師直始て
 此地に草庵を營み後其師法然上人を仰て開基せし所
 なり阿彌陀堂圓魔堂法然上人の廟等あり本堂の本尊
 は法然上人張貫の坐像にて上人土佐國左遷のとき其
 母の消息を以て自ら船中にて造りしもの世に張籠の
 御影と稱す堂宇いづれも壯麗にして殊に構造の妙を
 極め建築家の模範とする所なりといふ境内楓樹多く
 且つ山腹の高處にあるを以て眺望頗る佳絶なり
 ●粟生村より長法寺村奥海印寺村を経て西南の山中

に柳谷觀音あり白河天皇の時永觀上人の建立なり本
 尊千手觀音の立像を安す眼疾を患ふるもの此觀音に
 祈れば應驗著しといふ遠路より參籠祈禱するもの格
 禪たり

向神社 向日町 向日町宇勝山にあり向日神武天皇を
 祭る養老二年の創建なり社地を勝山と稱するは豊臣
 秀吉征韓出陣の途次本社に賓し社司を召て山名を問
 ふ社司故らに勝山と答ふ秀吉大に喜ぶ爾來以て其名
 とす祭日五月一日氏子一千餘戸を有す
 長岡天満宮 村字訓郡新神足 菅公を祭る昌泰四年菅公筑

紫に左遷の途次遇之の地を過ぐるとき寛平法皇の侍
 臣祐房といへる者別を惜て公の影像を寫し後遂に祭
 りて神とすといふ境内に池あり池畔に梅楓蔭闊多く
 四時の風光絶佳なり

寶寺山訓郡大 天王山の半腹にあり聖武天皇の敕願に
 より行基菩薩の草創せし寺なり本尊十一面觀音は聖
 武天皇行基菩薩と共に彫刻し給ひたるものなりと堂
 前九重の石塔は同天皇の御塔にして門内の三重塔に
 は大日如來の像を安す又當山に觀音寺及び八王子社
 あり相距ること各四五町八王子社は素盞鳴尊の八子

山 來



を祀り観音寺は眞言宗にして聖徳太子作の観音像を安置す此山山勢雄偉八幡山と相對峙して淀川の長流其中間を流れ布帆風に飽き漁歌岸に起り堤柳青々白鷗蘆間に游泳するさまなと妙ならざるはなし

離宮八幡宮上 貞觀二年の創建にして應神天皇を祭る明治戊辰の兵燹にかより現今假殿を設くるのみ此地は古の山崎離宮にして弘仁五年嵯峨天皇交野に遊獵し日暮山崎離宮に御せられし事あり故に此社今に離宮の二字を冠すとぞ

男山八幡宮 綴喜郡 官幣大社にして應神天皇神功皇后

○離宮八幡宮 ○男山八幡宮

二 条 城



玉依姫の三座を鎮す貞觀年間南都大安寺の僧行教宇
 佐八幡の神告を蒙りこれを奏聞し敕許を得て勸請せ
 し所なり一の鳥居あり石柱にして南に面し八幡宮の
 額を掲ぐ本社は二の門の内にあり左右に廻廊あり神
 殿は瑞籬を以て繞らすその瑞籬甚壯麗にして花鳥を
 彫り五色を彩り金銀を鏤め結構いはん方なく又神殿
 の雨樋は黄金を以て造れり境内名勝故跡多く石清水
 景清塚楠公手植の樟樹御前の楠等あり

西部下

二條離宮 上京區西二條

舊二條城にして永祿十二年織田

二条城



玉依姫の三座を鎮す貞觀年間南都大安寺の僧行教宇
 佐八幡の神告を蒙りこれを奏聞し赦許を得て勸請せ
 し所なり一の鳥居あり石柱にして南に面し八幡宮の
 額を掲ぐ本社は二の門の内にあり左右に廻廊あり神
 殿は瑞籬を以て繞らすその瑞籬甚壯麗にして花鳥を
 彫り五色を彩り金銀を鏤め結構いはん方なく又神殿
 の雨樋は黄金を以て造れり境内名勝故跡多く石清水
 景清塚楠公手植の樟樹御前の橘等あり

西部下

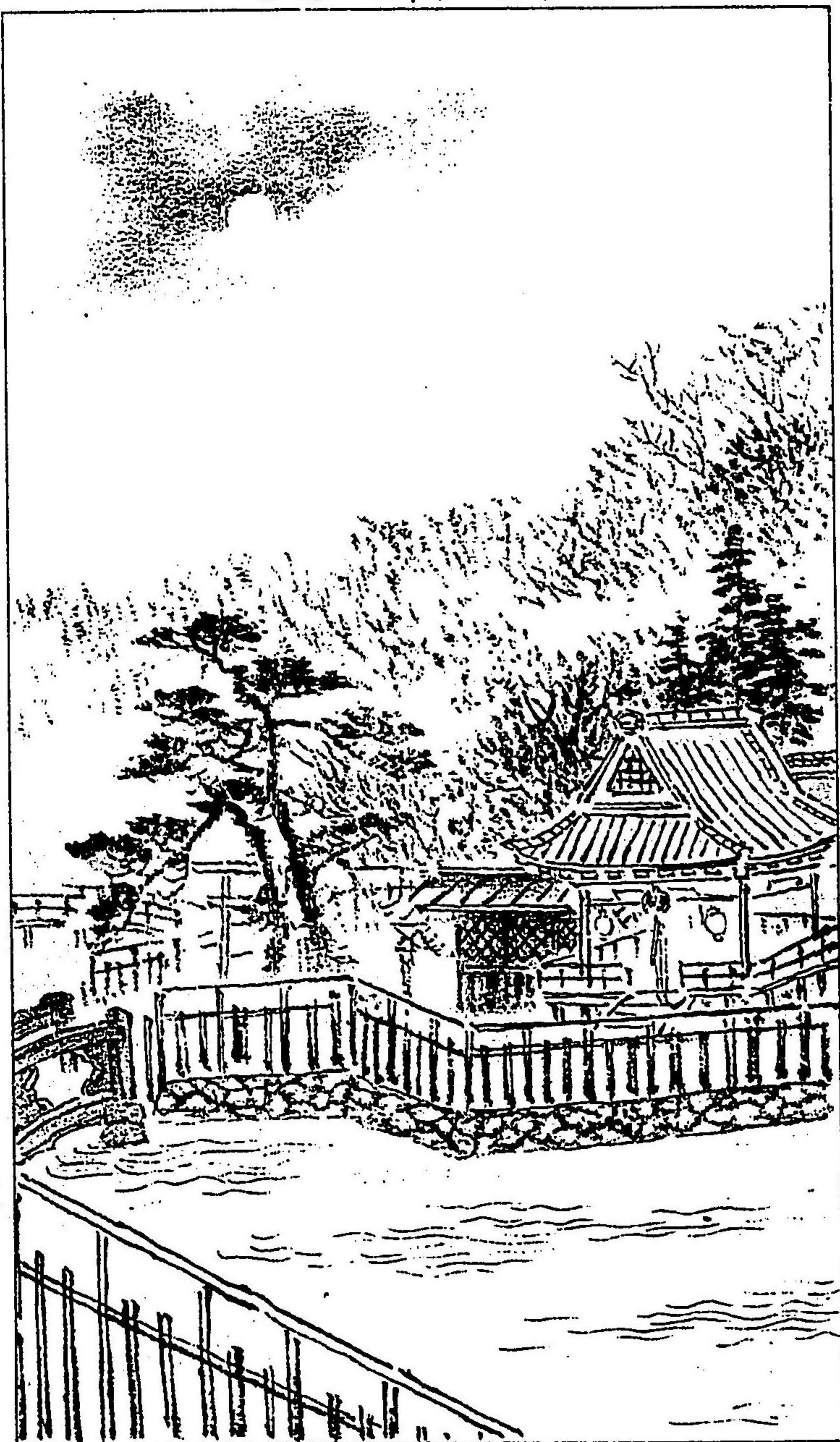
二條離宮 上京區二條 堀川西

舊二條城にして永祿十二年織田

信長始て此城を築きしが萬曆十年明智光秀これを燒
 き一時荒廢せり其後慶長七年徳川氏再びこれを築造
 す維新の際太政官代となりたる事ありその後京都府
 廳を置きしが近年宮内省の管轄に屬して二條離宮と
 稱し益修營を加へらる白書院黒書院等建築の良材室
 内の名畫名刻等は當時徳川氏の全盛を追想するに足
 れり

神泉苑上京區御池 桓武以來歴代の天子遊覽の林苑に
 して古は二條以南三條以北大宮以西壬生以東に跨り
 封疆甚廣大なりしがその後大に荒廢し元和年間には

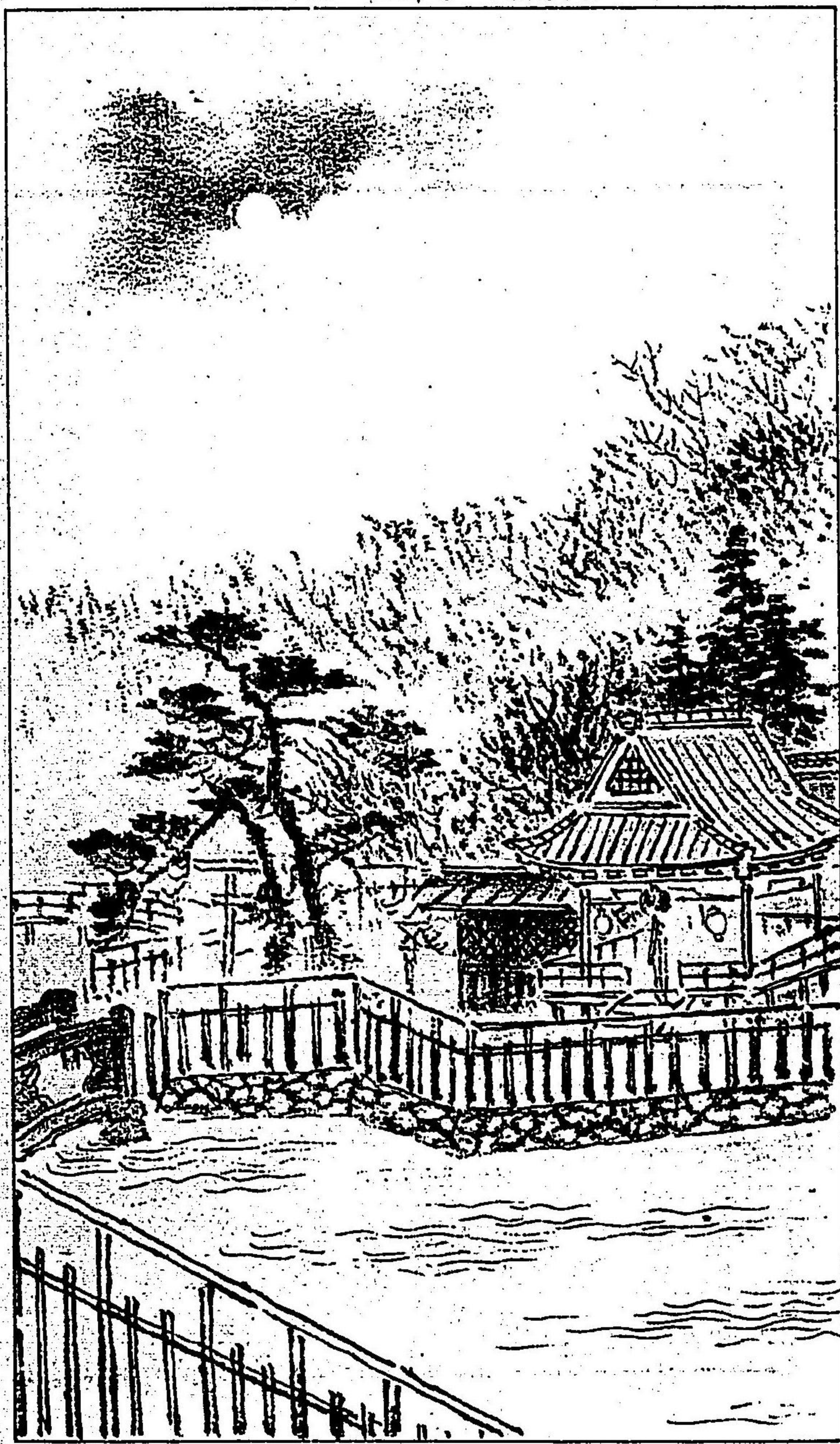
神泉苑



○壬生寺

舊跡殆ど滅絶せんとせしを僧覺雅深くこれを惜み官
 に稟して漸く其一部を修補し眞言の靈場を開けり門
 内碧池あり漣漪湛々たり池中に嶋あり善女龍王と辨
 財天女を祭れりむかし弘法大師小野小町雨を祈りた
 る故事ありしも皆この林泉なり
 壬生寺雀野村 眞言律兼修の寺にて大和の招提寺に
 屬す一條天皇正暦二年江州三井寺の僧快賢僧都の開
 基せし所なり本尊は地藏菩薩にして定朝の作なり世
 に壬生狂言といへるは當寺中興の祖圓覺上人の創始
 せし大念佛にして毎年四月二十一日より十日間これ

神泉苑



舊跡殆ど滅絶せんとせしを僧覺雅深くこれを惜み官
 に稟して漸く其一部を修補し眞言の靈場を開けり門
 内碧池あり漣漪湛々たり池中に嶋あり善女龍王と辨
 財天女を祭れりひかし弘法大師小野小町雨を祈りた
 る故事ありしも皆この林泉なり
 壬生寺雀野村那朱眞言律兼修の寺にて大和の招提寺に
 屬す一條天皇正暦二年江州三井寺の僧快賢僧都の開
 基せし所なり本尊は地藏菩薩にして定朝の作なり世
 に壬生狂言といへるは當寺中興の祖圓覺上人の創始
 せし大念佛にして毎年四月二十一日より十日間これ

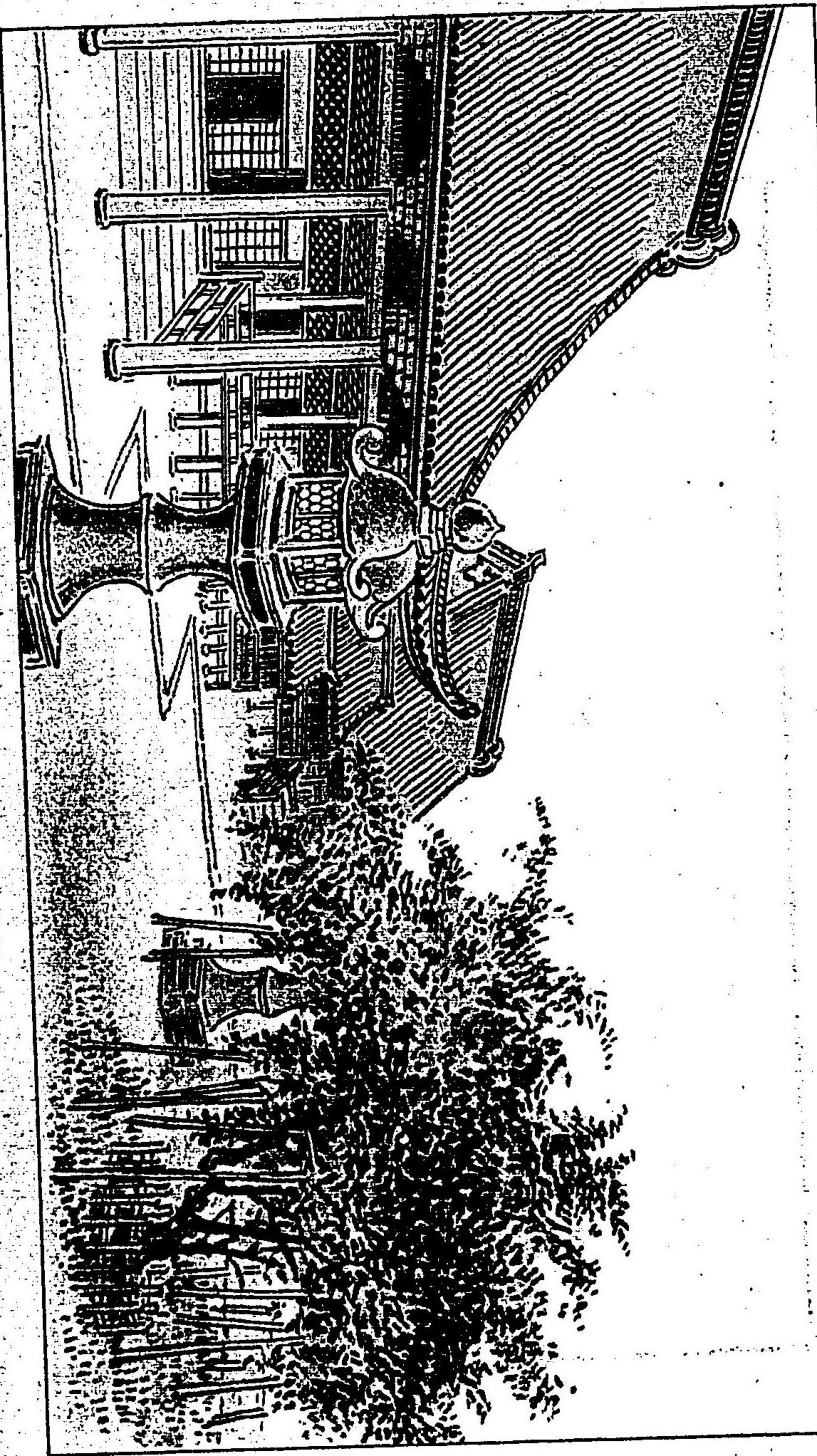
を施行す桶取花盗人紅葉符等二十五番の猿樂あり無
言にして少しも言語を用ひて形容手振を以て意を示
す古風異體のものなり

鳴原下京區花屋 谷に傾城町といひ中之町大夫町中堂
寺町上之町下之町揚屋町の六町を總稱す四周圍むに
胸壁を以てし繞らすに溝渠を以てし別に一廓を構ふ
東門の橋を思案橋といひ兩側の柳を見返の柳といふ
往時封建の世には諸國の豪客來りて一刻千金の遊を
なすもの少からざりしが維新後漸く衰頽して祇園新
地の隆盛なるに及ばざ然れども昔時豪華の遺跡今猶

存し妓院樓臺の構管粧飾より貯藏の名畫器物人目を驚かすべきものあり
 太夫道中といへる事あり廊中行事の有名なるものにして毎年花時四月二日これを行ふ即ち娼女の姿色艶美なるもの盛飾華装して小鬟を随從せしめ廊中を歩行しそれより東寺に詣づるの式なり都人集てこれを觀る

本國寺通下京原南大宮 大光山と號す法華宗の本山なり初め日蓮上人相州鎌倉の松葉谷に於て法華宗の精舎を建立し法華堂と號せしが日朗日印等相尋で其堂に住

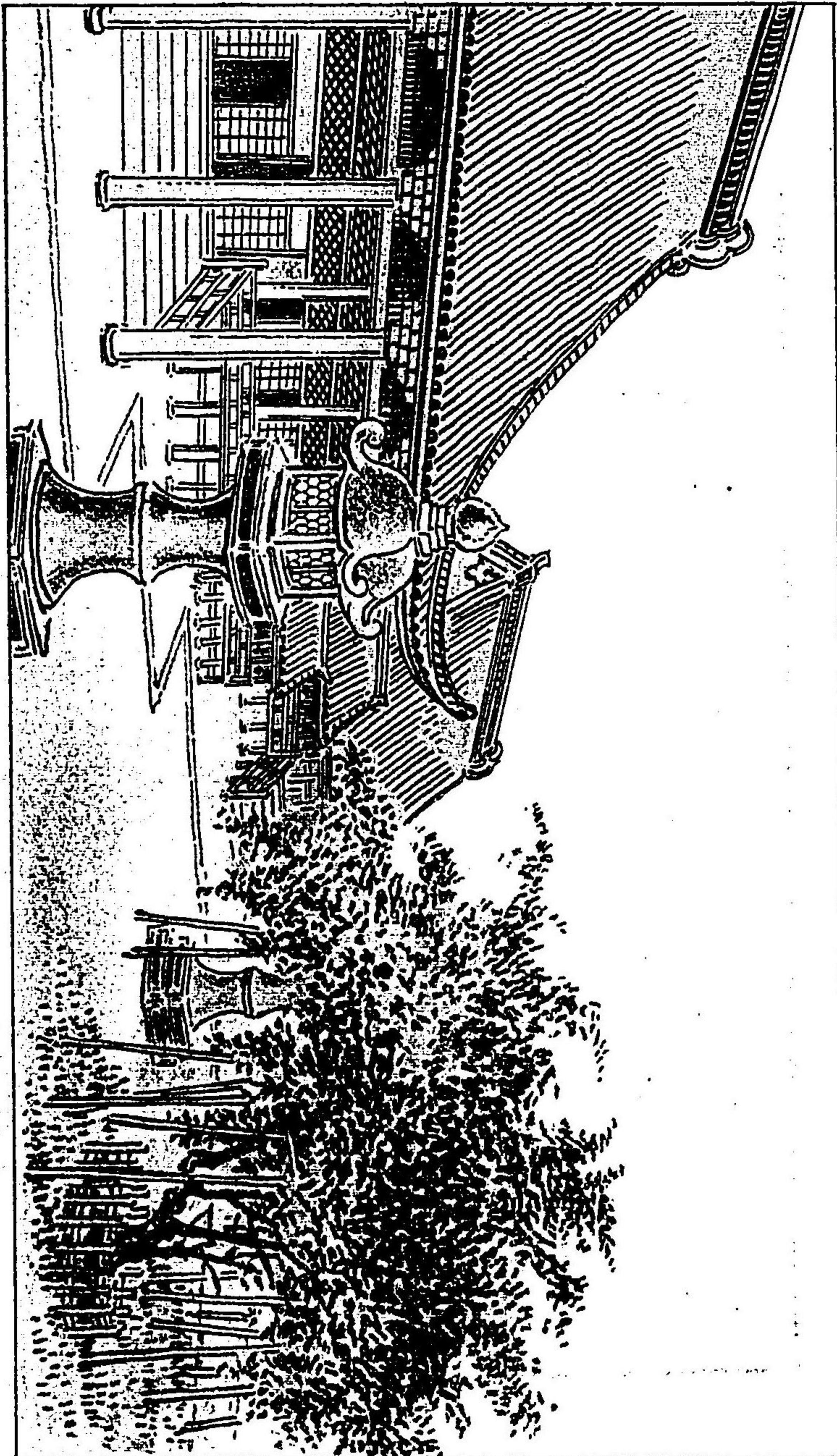
寺觀本由



存し妓院樓臺の構管粧飾より貯藏の名畫器物人目を驚かすべきものあり
 太夫道中といへる事あり廊中行事の有名なるものにして毎年花時四月二日これを行ふ即ち娼女の姿色艶美なるもの盛飾華装して小鬟を随從せしめ廊中を歩行しそれより東寺に詣づるの式なり都人集てこれを觀る

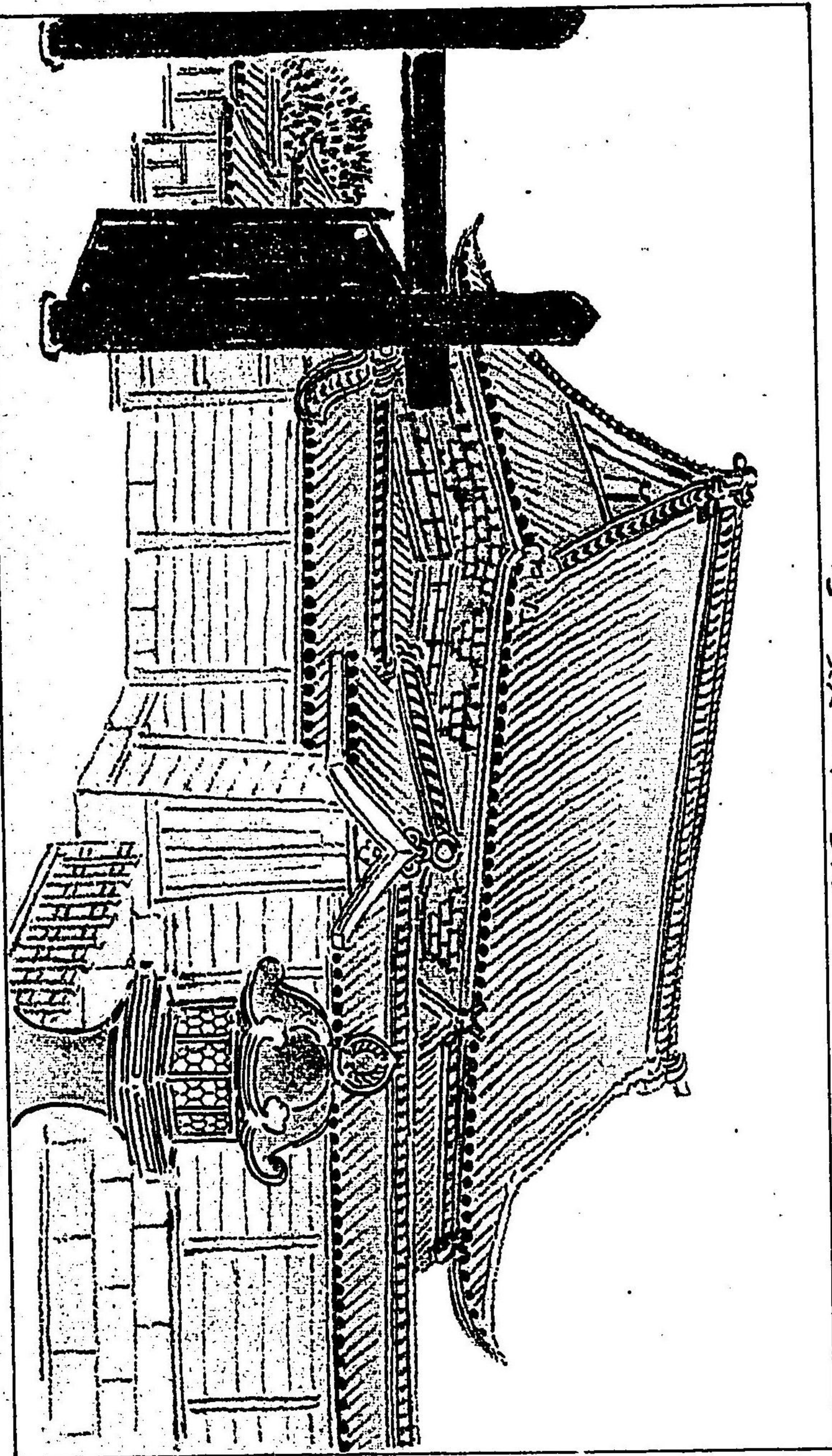
本國寺本國寺 通通下下京京區區南南大大宮宮 大大光光山山と號號す法法華華宗宗の本本山山なり初初め日日蓮蓮上上人人相相州州鎌鎌倉倉の松松葉葉谷谷に於於て法法華華宗宗の精精舎舎を建建立立し法法華華堂堂と號號せしが日日朗朗日日印印等等相相尋尋で其其堂堂に住住

寺觀本田



せり日静上人の時に至り救願所となり曆應四年光嚴
上皇の敕を奉じて遂に此地に移せり本堂は法華經を
以て本尊とす當寺の什寶に日蓮上人筆の鴛鴦曼陀羅
あり其他名品のもの多し

西本願寺下京區堀川 眞宗本派の本山なり文永三年親
鸞上人の女覺信尼始て救許を蒙り上人の廟舎を智恩
院境内崇泰院の地に建營せしがその後屢戰亂に遭ひ
大津山科難波紀州鷺森泉州貝塚等に轉移し天正十九
年第十一世顯如上人の時攝津天満より此地に遷りて
終に大伽藍を建立せり本堂には骨肉の像を安置す阿

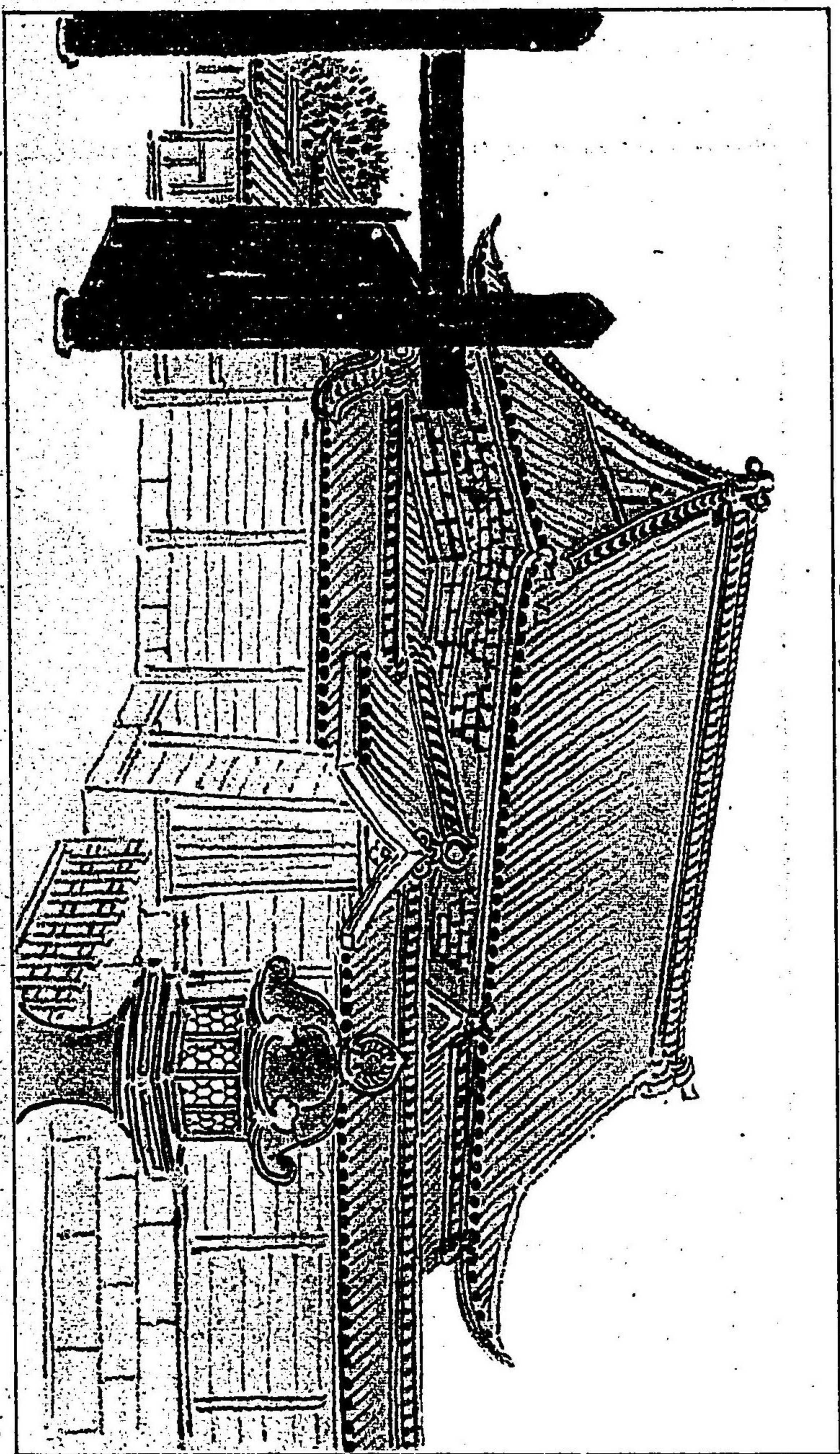


寺額本果

○西本願寺

百七十八

彌陀堂集會所轉輪藏鐘堂鼓樓等の堂宇あり鐘堂には
 太秦廣隆寺より移せし鐘を懸く少納言信西入道の銘
 あり又白書院黒書院關鴨殿綺春館永安館桃仙館等の
 諸殿舎あり又瀟翠園あり園内に黃鶴臺滄浪池龍背橋
 嘯月波踏花塙醒眠泉青蓮榭胡蝶亭夜光石艶雪林の十
 景あり又飛雲閣あり豊太閤の聚樂の邸にありしを移
 せし高樓なり其床の畫は狩野元信の筆にて行儀富士
 といふ諸國の信徒當寺に參拜するもの幾萬なるを知
 らせ近傍の住民数千戸は本願寺の爲に生計を營むも
 の多し



寺額本東

○西本願寺

百七十八

彌陀堂集會所轉輪藏鐘堂鼓樓等の堂宇あり鐘堂には
 太秦廣隆寺より移せし鐘を懸く少納言信西入道の銘
 あり又白書院黒書院關鴨殿綺春館永安館桃仙館等の
 諸殿舎あり又瀟翠園あり園内に黃鶴臺滄浪池龍背橋
 嘯月波踏花塲醒眠泉青蓮榭胡蝶亭夜光石艶雪林の十
 景あり又飛雲閣あり豊太閤の聚樂の邸にありしを移
 せし高樓なり其床の畫は狩野元信の筆にて行儀富士
 といふ諸國の信徒當寺に參拜するもの幾萬なるを知
 らせ近傍の住民數千戸は本願寺の爲に生計を營むも
 の多し

東本願寺ひがしほんがんじ 下京區しもみやぎ 北きた 九く 慶長七年けいちょうしち 本願寺ほんくわんじ 第十世だいじゅうせい 顯如上人けんじょうにん
 の子こ 教如上人きょうじょうにん 台命たいめい を奉ほう じて新あらた に此地このち に伽藍がらん を建立こんりよ し
 これを本願寺ほんくわんじ と號がう す當時たうじ 建立こんりよ せし佛閣ぶつかく 殿堂てんだう 頗こよ る壯大まうだい
 を極きま めしが元治げんじ の兵燹へいせん にかゝり堂宇だうう 燼失せんじつ せりその後のち
 再建さいけん に着手ちやくしゆ し大師堂だいしだう は已すで に落成らくせい し前年ぜんねん 上棟式じやうとうしき を行おこな へ
 り阿彌陀堂あみだだう も又また 已すで に竣成しゆんせい せんとすその費額ひがく 凡およ 七百萬しちひゃくまん
 圓餘えんご の豫算よざん にして實じつ に宏大こうだい なる建築けんちく なり佛堂ぶつだう の建築けんちく
 恐おそ くは將來しやうらい 斯か の如ごと きものあらざるべし西本願寺にしほんくわんじ と共とも
 に最ももつと 信徒しんたう の多おほ き本山ほんざん にして參詣さんぎ の男女なんにょ 常につね 堂前だうぜん に
 鐵集てつじふ し殊こと に春秋しゆんとう 彼岸ひがし 詣ぎ には遠とほ く諸國しよこく より來きた り賽さい する

○東本願寺

東 寺



○東寺

百八十

ものその數無慮にして近傍の旅店これが爲に衣食するもの多し

東寺西八條南大宮 教王護國寺と稱す延暦十五年桓武天皇大納言伊勢人を造寺の長とし朱雀門の東西に兩寺を建設し給ふその後嵯峨天皇弘仁十四年に至り西寺を奈良の守敏に賜ひ東寺を弘法大師に賜ふ今の東寺即ち是なり門には南大門慶賀門蓮華門八足門あり堂には金堂講堂食堂大師堂等あり五重塔は金堂の東南に聳え瓢箪池は慶賀門の内にあり燕子花多し境内廣潤にして老樹鬱茂し風景清深蒼古なり當寺の什寶に

東 寺



ものその數無慮にして近傍の旅店これが爲に衣食するもの多し

東寺トウジ西シ八ハ條チョウ區ク南ナン大ダイ宮ミヤ 教キョウ王ワウ護ゴ國クニ寺ジと稱シヨウす延エン曆リキ十ジュウ五ゴ年ネン桓クワン武ブ天テン皇ワウ大ダイ納ナク言ゴン伊イ勢セイ人ニンを造ゾウ寺ジの長チヤウとし朱シュ雀セツ門モンの東トウ西シに兩リウ寺ジを建ケン設セツし給キヨウふその後ノチ嵯サ峨エ天テン皇ワウ弘コウ仁ニ十ジュウ四シ年ネンに至シり西シ寺ジを奈ナ良ラの守シウ敏ミンに賜タマひ東トウ寺ジを弘コウ法ホウ大ダイ師シに賜タマふ今イマの東トウ寺ジ即ツキち是コレなり門カドには南ナン大ダイ門モン慶ケイ賀カ門モン蓮レン華カ門モン八ハチ足ソク門モンあり堂ドウには金キン堂ドウ講コウ堂ドウ食シキ堂ドウ大ダイ師シ堂ドウ等トウあり五ゴ重ジュウ塔トウは金キン堂ドウの東トウ南ナンに鐘ショウ之シ瓢ヒョウ尊ズン池チは慶ケイ賀カ門モンの内ウチにあり燕カキ子コ花ハナ多タし境ケイ内ウチ廣ヒロ潤ツルにして老ラウ樹ジュ鬱ウツ茂モウし風フウ景ケイ清セイ深シン蒼ソウ古コなり當タウ寺ジの什ジツ寶ホウに

は弘法大師筆跡のもの多く就中七祖真風信帖等の如
きは他に比類なき名蹟たり毎月二十一日には参詣の
客常に群集し境内及びその近傍は賣店を以て楡比す
北野神社の二十五日と共に京都に於ける大縁日とす
因幡薬師下不明門本尊は日本三如来の一にして天
徳三年橘行平因幡國賀留浦に漂着したる浮木を以て
刻める薬師像なり行平京師に歸りその第宅に佛殿を
建立してこの像を安置す今の薬師即ち是なりかくて
承元元年高倉院より平善寺の號及び教相を明はり永
曆三年には後白河帝行幸の事あり現今の堂宇は足利

は弘法大師筆跡のもの多く就中七祖贊風信帖等の如
きは他に比類なき名蹟たり毎月二十一日には參詣の
客常に群集し境内及びその近傍は露店を以て櫛比す
北野神社の二十五日と共に京都に於ける大縁日とす
因幡藥師下京區松原本尊は日本三如來の一にして天
徳三年橘行平因幡國賀留浦に漂着したる浮木を以て
刻める藥師像なり行平京師に歸りその第宅に佛殿を
建立してこの像を安置す今の藥師即ち是なりかくて
承元元年高倉院より平等寺の號及び救額を賜はり永
曆二年には後白河帝行幸の事あり現今の堂宇は足利

義教の再建にして爾來五百年風火の災なく今日に至る
 御影堂下京區幸町西 天長年間檀林皇后の本願により弘
 法大師の開基せし所なりしが中世王阿上人此に住せ
 しより時宗となれり本尊は信州善光寺の阿彌陀如來
 を模したる影像なれば堂を御影堂と稱せしが今その
 像は坊中の善光庵に遷し本堂には別に安阿彌作の如
 來を安せりひかし平敦盛の室蓮華院尼當寺に閉居し
 阿古女扇を製せし故事ありしより御影堂扇と稱し此
 近傍町家の名産となり遂には京都物産中の一二屈指

のものとはなれり
 佛光寺下京區高倉南 眞宗佛光寺派の本山にして本堂に
 は親鸞上人自作の像を安し阿彌陀堂には慈覺大師作
 の阿彌陀佛を安置す寺内堂宇の建築兩本願寺に髣髴
 たり唯大小の差異あるのみ
 六角堂下京區東 頂法寺と號す天台宗にして聖徳太
 子の開基せし所本尊如意輪觀音は一丈八分の黄金佛
 にしてひかし淡路國岩屋浦の海中より獲たるものな
 りといふ堂の構造は六角形にして元治兵燹後の再建
 なり當寺に池の坊あり立花の祖家にしてその名世に

開 け

新 京 極 以 北 三 條 以 南 四 條 京 都 第 一 繁 華 熱 鬧 の 地 に して 各
 種 の 小 肆 其 間 に 密 接 し 飲 食 店 雜 貨 店 演 劇 寄 席 興 行 觀
 物 遊 技 場 等 櫛 比 軒 を 並 ぶ 遊 人 の 往 來 晝 夜 の 別 な く 雜
 遼 喧 囂 を 極 む

官 衙

京 都 府 新 上 京 區 下 立 賣 署 ● 京 都 市 參 事 會 府 廳 內 ● 上 京 區 役
 所 上 京 區 中 立 賣 署 ● 下 京 區 役 所 場 下 京 區 五 條 柳 馬 ● 警
 察 部 府 廳 內 ● 中 立 賣 署 署 九 上 京 區 中 立 賣 署 ● 五 條 警 察
 署 橋 下 西 區 五 條 大 ● 松 原 警 察 署 寺 町 京 東 區 松 原 建 仁 ● 堀 川 警
 察 署 小 路 北 區 堀 川 錦 ● 河 原 町 警 察 署 太 上 京 北 區 河 原 町 九 ● 上
 長 者 町 警 察 署 智 恵 院 東 上 長 者 町 ● 愛 宕 郡 役 所 村 愛 宕 郡 田 中
 ● 葛 野 郡 役 所 村 葛 野 郡 太 桑 ● 乙 訓 郡 役 所 町 乙 訓 郡 向 日 ● 紀
 伊 郡 役 所 町 紀 伊 郡 伏 見 ● 宇 治 郡 役 所 村 宇 治 郡 磯 碓 ● 久 世 郡
 役 所 町 久 世 郡 淀 ● 綴 喜 郡 役 所 村 綴 喜 郡 田 邊 ● 相 樂 郡 役 所 樂 相

員九指人物、衛生、看護、師範、十の科を授け、現今敷 ●美術工藝學校上京町
 通る御幸町にて、目的、明治十三年の創立に、彫刻、三美術及工藝を備
 科を置く、教員、近十日一人、生徒、百一人あり、加 ●染織學校上京町
 工、土木、習所、を設け、明治十九年、六月、これを相謀り、私立、染
 更に、織物、科、を加へ、生徒、六十人あり、 ●上京高等小學校上京
 教員、二室、八人あり、明治二十七年、設立、 ●下京高等小學
 校、今下京、區、三十五通、人、生、徒、西、一、千、七、百、七、十、九、人、あり、現
 府立療病院、五年、の、區、河、原、に、通、て、廣、小、路、内、外、の、井、治、療、を、施、す、明、治
 來、を、併、備、せ、て、病、室、多、一、千、八、百、六、十、五、名、入、院、外、 ●府立驅籠院、京下

の區、祇園、を、施、す、見、小、路、の、あり、明治、十九、年、の、創立、に、五十、名、なり、 ●
 平安病院、川上、東、區、上、立、賣、堀、 ●同志者病院、長、上、京、區、南、龍、前、町、上
 ●療蟲病院、新、上、京、區、中、長、者、町 ●京都癲狂院、禪、上、京、區、南 ●岩
 倉精神病院、岩倉、村 ●益井療眼院、野、口、村 ●東山醫院、區、下、京
 入、祇、園、大、和、路、東 ●山田病院、九、下、東、區、松、原、通、島 ●眼病院、京、上
 町、東、二、條、通、水、町 ●船岡療眼院、大、宮、村 ●六條病院、町、下、通、御、前、新
 野、通、南、平、等、あり

會社及銀行
 京都織物會社、上、京、區、吉、田、町、に、あり、資、本、金、五、十、萬、圓、に、五、
 あり、十四、人 ●京羽商會、萬、上、京、區、一、衣、棚、通、二、條、南、に、あり、職、工、資、本、金、十、三、
 〇會社及銀行
 百八十九

人あ ● 第一絹絲紡績會社 十上京東竹屋町にあり資本金二
 三十人あり五百 ● 京都時計會社 上京區富小路二條北に
 三時計製造業あり ● 京都陶器會社 紀伊郡深草村にあり
 職工七十五人あり ● 京都陶器會社 紀伊郡深草村にあり
 一造業千七百職工三十人あり ● 傳法紡績株式會社 十
 郡八幡町字八幡莊にあり ● 瓶原紡績株式會社 十
 會社 相模郡原村にあり ● 京都製絲合資
 會社 上京區吉田町にあり ● 西陣紋織會
 社 上京區智恵光院通寺之内南にあり ● 西陣織
 物會社 上京區小川通今川町にあり ● 藤井
 紡績會社 上京區小川通今川町にあり ● 藤井

報會社 上京區石版印刷東院 ● 磯野製絲場 定海郡津村にあり ●
 ● 磯野製絲場 定海郡津村にあり ● 西陣織會社 上京區西陣にあり ●
 關西貿易會社 十下京區三條通海町にあり ● 西陣織會社 上京區西陣にあり ●
 京都倉庫會社 十下京區七條通車庫前にあり ● 京都電
 燈會社 下京區河原町通蛸薬師北にあり ● 嗟峨材木會
 社 葛野郡下木津村にあり ● 伏見倉庫會社 伊
 二郡伏見町字草屋にあり ● 淀川汽船會社 紀伊郡南
 國にあり ● 河川通運業 ● 淀川汽船會社 紀伊郡南
 第四十九國立銀行 下京區三條通柳馬場西 ● 第一百十一國
 立銀行 下京區三條通烏丸東 ● 第七十國立銀行 町久世下津淀

びするの爲に市民の優遇に服する目的の及ぶ美術協會
 北町御池 ● 京都醫學會 ● 京都藥劑師會 ● 京都教育會 ● 京都府農會 ● 京都婦人慈善會 ● 京都路
 師會 ● 保勝會 ● 反省會 ● 京都府農會 ● 京都婦人慈善會 ● 京都路
 目的 ● 保勝會 ● 反省會 ● 京都府農會 ● 京都婦人慈善會 ● 京都路
 愛ひ法を闡明するに目的を以てしむ ● 京都婦人慈善會 ● 京都路
 東に ● 反省會 ● 京都府農會 ● 京都婦人慈善會 ● 京都路
 ろる ● 反省會 ● 京都府農會 ● 京都婦人慈善會 ● 京都路
 正目的を以てしむ ● 京都府農會 ● 京都婦人慈善會 ● 京都路
 諸名家 ● 谷鐵臣 ● 小野湖山 ● 江馬天江 ● 近藤芳
 文 ● 林雙橋 ● 宇田栗園 ● 皇學 ● 近藤芳
 池南 ● 林雙橋 ● 宇田栗園 ● 皇學 ● 近藤芳

介社 ● 猪熊夏樹 ● 中西石蔭 ● 藤原
 重浪 ● 水莖 ● 今尾景年 ● 藤原
 望月玉泉 ● 田能村小庸 ● 谷口露山 ● 藤原
 ● 原在泉 ● 森川曾丈 ● 岸竹堂 ● 土
 佐光武 ● 菊地芳文 ● 鈴木松年 ● 田
 村宗立 ● 竹内棲鳳 ● 油井 ● 不識庵 ● 秋
 川東 ● 樽庵 ● 茶家 ● 敷内紹智 ● 生花家 ●
 ● 池之坊 ● 猪子止戈之助 ● 半井眞澄 ● 山
 ● 安藤精軒 ● 山田文友 ● 福井貞憲 ● 松原小
 ● 渡邊晋三 ● 山田文友 ● 福井貞憲 ● 松原小
 ● 渡邊晋三 ● 山田文友 ● 福井貞憲 ● 松原小

各種商工

吳服●高嶋屋原丸松●市町東條入寺●井上大丸新上町魚●
 下村大丸町松原寺●松源丸四條東入鳥●小路角太物●大忠訪
 之町五●鍵忠條烏下丸五●河内屋器室町上●永樂堂院三條東洞
 縮緬友仙●西村總左衛門丸三條烏●西村治兵衛三條衣●
 廣岡伊兵衛五條町通白川友仙●堀川新三郎三白川下橋西陣織●
 物帶地●矢代庄兵衛條室町二●中村半兵衛六角洞院●津田
 榮太郎九三條烏同織物工●伊達虎一堀川頭天●佐々木清
 七之堀川上寺●川嶋甚兵衛倉三條高同天鷲絨工●駒井定七之寺
 本千同遊廓向●萬足屋藥川原上町●鳴龜御鉄屋下町關東物●

大原直次郎藥師下院●内貴清兵衛御池上院●市田理八角六
 東洞院●下村忠兵衛條烏上九四●安田善三郎原寺町松●
 木下茂平町五條室●明田庄次郎六角洞院●川本庄兵衛院東洞
 下角襟●及了善町東條寺●及了萬橋上手新同仕入●澤村芳之
 助丸師烏●菱屋院五條東洞●日野屋四條上院●泉忠兵衛
 室町角●宮本儀助明松原角●松井正七小室町錦上洋反物御●
 伊庭喜兵衛六角小路上●杉村屋星町角●同小賣●路東富小
 縮緬商●野橋作兵衛池室町御●山田定兵衛藥師上●山田
 長左衛門御池角●柴田源七角下●安原文次郎條室町三
 糸物●兒嶋定七馬場角●山本清助光寺町下●木村卯七町寺

松原同舖賣●寺村助右衛門川原上町●四方田嘉兵衛問五之條
 下生糸●中村源右衛門倉御池高●荒川宗助町六角室●山田
 茂助辻上宮五●岡本治助宮中筋大紅染●立小發川下染工●高
 松長兵衛寺五辻入淨福●下村德太郎松原河上院●黑染●吉川椿之
 助川上立資堀上代染●林長兵衛小岩下鋪金巾問屋●竹村藤
 兵衛條新町五●福田市十郎路六角入富小有職裝束●高田茂丸
 出水●黑川正齋太室町上九●黑田半七町東入町●同細工●福
 井彌兵衛町東入町●林武兵衛池寺町御縫工●安田新造丸
 路小●小林久次郎小川上●吉田半治郎龜島下書繪商●
 村上勘兵衛三條洞上院●藤井孫兵衛御幸上町●田中治兵衛

寺上町●山田直三郎條寺下町二●永田長左衛門洞屋町西
 製本師●本田市治郎小御幸上町押骨董類●鳩居堂小寺路角●
 清雅堂條下町三●經師短冊色紙●吉田勘兵衛池寺町御●惠美
 小平小寺路下●山本彦兵衛小寺路下押紙商●大森治郎兵衛條五
 東洞院●田中宗助條上九二●中井三郎兵衛院三條東洞筆墨
 文房具●鳩居堂小寺路角●古梅園條寺上町二●刷毛商●西村彌
 兵衛寺下町佛光扇商●林阿彌入五條影寺町西●底阿彌上●十
 松屋條上九四●宮脇新兵衛路六角入宮小●四柳場上表具師●
 奧村吉兵衛川上九夷●三浦太三郎馬二場東柳●伏原嘉一郎小
 院路東洞張物●藥師川平兵衛島丸藥西師諸道具類●林新助門古

前入繩手 ● 山中吉郎兵衛池寺町御蒸香類 ● 香重町西入室 ● 鳩
 東入繩手 ● 山中吉郎兵衛池寺町御蒸香類 ● 香重町西入室 ● 鳩
 居堂小寺町角陶器粟田燒 ● 錦光山宗兵衛粟田 ● 丹山陸郎
 三條 ● 安田源七三白川下筋同清水燒 ● 清水六兵衛坂五條 ● 高
 栗田 ● 安田源七三白川下筋同清水燒 ● 清水六兵衛坂五條 ● 高
 橋道八上同 ● 眞清水藏六上同 ● 清風與平上同樂燒 ● 樂慶入
 油賣小路上中 ● 永樂和善鷺下尾川同七寶燒 ● 並川靖之三白川北
 立賣小路上中 ● 永樂和善鷺下尾川同七寶燒 ● 並川靖之三白川北
 入筋東 ● 三上伊左衛門橋三條西入白川賀易茶 ● 池田佐七郎松寺原町
 下 ● 藤川清二郎町五條東入新 ● 秋山覺之助町三條東入新 ● 渡邊利兵
 衛川寺下町夷 ● 西田彌太郎五條仁寺下町同小賣 ● 美濃部光之助
 小卯馬場下 ● 三木安次郎寺上町四 ● 清水太右衛門町三條西入寺 ●
 玉露軒御池上小路茶器 ● 乾寺上町六 ● 中村上茶道具 ● 國松治

助塚下町三 ● 松岡嘉右衛門川新町夷 ● 淺井久太郎古門前小
 菓子商 ● よし則塚野角 ● 龜末廣屋町小角車 ● 若狹屋院東河
 角師西洋菓子商 ● 桂月堂町三條西入川原 ● 小川堂條寺上町二佛師
 ● 田中宗助小寺上 ● 乾清太郎光寺町下佛 ● 山本佐助町建仁寺
 下 ● 和田九左衛門町三條東入 ● 竹内右門松原下町佛具 ● 寺嶋
 作右衛門中丸東屋町 ● 內藤平兵衛東下洞院西入 ● 福永藤助
 上珠數屋町 ● 鑄物師 ● 吉田安兵衛五條小路 ● 大西清次郎
 烏丸東入 ● 四方龍文堂小寺下錦蠟燭商 ● 佐々木源兵衛寺佛光
 東入 ● 佐々木源次郎小寺下綫塗師 ● 鈴木喜兵衛木屋町 ●
 馬場 ● 佐々木源次郎小寺下綫塗師 ● 鈴木喜兵衛木屋町 ●
 山本利兵衛室川町下 ● 吉田清三郎屋町小東入稻垣孫兵衛町寺

路下小 ● 西村彦兵衛 小寺町角綾 ● 木村表齋 小野路東入音樂器 ●
 神田龍光 寺上佛 ● 岩田喜八 町祇園鏡師 ● 金森常七 路東入富小 ●
 大久保武左衛門 寺町下竹金物商 ● 大喜田忠右衛門 屋町條
 入 ● 鳥井治三郎 藥川原町下 ● 金物店 幸町角御銅器師 ● 金
 谷五郎三郎 御池小路 ● 紹美榮助 條寺下 ● 秦藏六 小宮小路押
 ● 中川淨益 町崎 ● 建築師 ● 三上吉兵衛 條猪熊三 ● 伊藤平左
 衛門 倉小西入路 ● 尾瀧菊太郎 二川原上町 ● 木具指物 ● 駒澤利齋
 小川上 ● 久保田庄右衛門 幸町角御 ● 松永長以 尾新町通花
 賣藥商 ● 田中庄兵衛 柳馬場 ● 久保田庄兵衛 條川五 ● 水
 谷勝藏 小宮小路下押 ● 饗庭資生堂 町東入寺時計商 ● 時計製造

會社 二宮小路 ● 家邊德治郎 小三條東 ● 村田榮助 橋四條大 ● 石
 原文助 町三條東入河原 ● 針商 ● みすや 町東入寺 ● 福永筑後 原三條河
 雛人形 ● 清水屋 四條小路 ● 益裁師 ● 疋田源吉 洞
 院下 ● 萬花園 祇園見小路 ● 百芳園竹二郎 太川町下丸 ● 彫製造
 ● 藤野彌助 御池小路 ● 小町紅 ● 木村平兵衛 町四條御幸和泉紅
 下村三之助 者鳥町九下長天 ● 上紅 ● 奧田利助 馬場柳東都紅 ● 西
 田清左衛門 三御幸上町白粉屋 ● 喜多萬右衛門 松原屋下 ● 藤本
 茂兵衛 場四條東入柳馬 ● 山下半兵衛 小坂町錦 ● 常盤商店 祇園通
 香煎 ● 原了郭 北祇園町 ● 琴三弦 ● 今村 屋夷川角車龍吐器平井權
 七原寺下 ● 松亭 ● 清水政太郎 院六角東入洞 ● 綿商 ● 福田兵助 小錦

東路烏丸 ● 桐畑路四條東入富小 ● 高宮院三條東入洞綿細工 ● 三崎清
 次郎路四條富小瓦師 ● 福田甚大夫田町佛池 ● 西村彦右衛門
 大佛東 ● 井上三左衛門上同傍師 ● 吉本勘兵衛新地條 ● 井上
 與兵衛九七條入烏 ● 山田善助條室上町一蚊帳 ● 田中平助倉三條入高
 ● 西川甚五郎原寺上町松袋物 ● 江戶店原寺上町松 ● 象嘉條寺上町四
 ● 種半町四條東入寺 ● 肥後伊町西藥師寺 ● 幾岡條繩上手ルグ ● リキ
 ● 開化堂原寺下町松 ● 栢林堂條寺上町二砂糖 ● 白山茂兵衛夷寺町
 上 ● 沈傳水堀上川出ル弓矢師 ● 羽津半兵衛松御幸上町湯葉 ● 湯葉
 吉屋錦町東路入款 ● 湯葉半款屋下町押饅頭 ● 親玉條新下ル極三 ● 龜
 村道新坂極 ● 大福軒倉四條入高 ● 玉川路五條東入富小 ● 鹽路軒川今大出

宮東 秩 ● 秩半屋錦町東入款 ● 三浦川今出川掘銃器 ● 國友白三川條
 入東 寫真師 ● 堀具澄光寺町下佛 ● 成井頼佐社八坂神藝園師 ●
 小川治平筋三條東北白川橋 ● 古木卯之助小兩路下町押 ● 鈴木萬吉
 藥師町下石櫛師 ● 二十三屋町四條東入川原 ●
 類屋 ● 河道屋屋姊町東路入款 ● 尾張屋二車屋下町 ● 小田卷屋京新
 角下六 ● 丁子屋小新路上武著 ● 井筒屋長者町角善哉餅 ● わけは
 の上繩車道四條 ● 錦魚亭三條京極 ● 柳錦亭條川下堀ル ● 大松亭京新
 師極上蝸ル ● 丹金道新坂極 ● 龜山善哉路松原入油小餅屋 ● 大佛餅
 伏見上街ル ● 長五郎餅ノ北野下 ● すや餅魚間之町 ● 吉川餅九鳥
 正小 京極餅小路小角富 ● 加茂川餅二條川下堀

料理及席貸

會席料理 ● 鳥居本河原園下 ● 榎尾河原園下 ● 八新御池上町 ●
 瓢亭寺南町 ● わらんじや門前佛前 ● 竹村家藥河原上町 ● 松村
 屋先斗 ● 川新町先斗 ● 津四樓西石下 ● いけ龜寺園子上天性
 ● 松清御池小路 ● 鳥羽清四油小路 ● 美濃吉門繩手古西 ● 洋料理 ●
 也阿彌樓山 ● 中村家園新席貸 ● 有樂館花新見園小路 ● 共樂館
 藥河原町 ● 受樂亭新京極寺長角 ● 牡丹畑東新林 ● 尙歌堂園新
 原 ● 左阿彌山 ● 朝暉亭長樂 ● 梅々枝長樂 ● 八百傳屋木
 町西石 ● 松華樓石垣下町西 ● 飯嶋樓木垣下町石 ● 松月樓屋木
 町西石 ● 一華亭上 ● 末廣亭木垣下町石 ● 春琴樓一同上十 ●

ふじや 橋四條大 鮓屋 ● いっとう 新地 ● よし喜 堺小路 ● 一ふ
 じ前 細下 新門 ● いさみ 町 祇園 ● 平龜 町 先斗 鶏肉 ● 鳥新 橋四條小
 ● 菊水 町 先斗 ● 鳥彌 三石 垣下 町 四 ● 菊水 四御 條上 町 ● 鳥新 寺三條
 入東 ● 鳥新 町 錦小路 寺 ● 五徳 庵 新町 條 ● 高砂 地祇 園新 橋 ● 東里 軒
 切通 羽 牛 ● 御幸 軒 四御 條上 町 ● 竹亭 六新 角京 橋 ● 森田 伊三郎 熊猪
 下四 條 ● 松本 四建 條下 寺 町 ● 三嶋 屋 條寺 下 町 三 ● 村瀬 三東 河院 ● 伊
 川 立 賣 堀 南 川 入 ● 村瀬 橋 松 東 原 結 大
 旅 店
 旅 宿 ● 俵屋 御 鉄 屋 池 下 町 ● 終屋 上 同 ● 澤文 小 鉄 屋 上 町 押 ● 錦水 樓 水 流
 廣 橋 道 東 二 ● 茶久 橋 三 條 東 結 大 ● 萬屋 町 三 條 東 入 河 原 ● 日光 屋 橋 三 條 四 結 大 ●